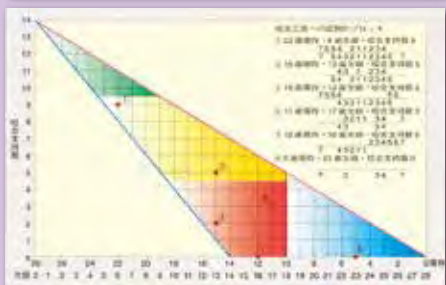


Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会会報 第399号

目 次

グラビア ふるさと自慢

会員往来

い な げ

巻 頭 言	1
新春学長座談会	2～8
お知らせ	9～11
東京歯科大学同窓会創立120周年記念	12～15
TDC アカデミア	16～17
会 務	18～21
事業推進部	22～28
準会員のページ	29～30
支部のうごき	31～47
クラス会だより	48～53
庶務日誌	54～55
逝去会員	56
投稿規定	57
へんしゅうこうき	58

表紙写真の説明

「八重の梅、咲く」

日時：2014年2月21日撮影

場所：香川県高松市 栗林公園

平成8年卒 香川県支部 鳥養智子先生 撮影

- ・ 新春学長座談会
- ・ 咬合三角図
- ・ 大正三年と現在の水道橋駅
- ・ 高山歯科医学院跡地にある歯科医学教育発祥之地の碑



ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

「川のまち・丘のまち・海のまち」

横 浜 鶴 見

私の住む鶴見区は横浜市の最東端に位置し、「川のまち」と「丘のまち」に「海のまち」という3つの顔を持っています。

ここでは、それぞれの「まち」の一端を紹介したいと思います。

『川のまち』

北東部にあたる鶴見川と多摩川に挟まれた平地のエリア。「六郷渡れば川崎の万年屋、鶴と亀とのよねまんじゅう、こちゃ神奈川急いで保土ヶ谷へ♪」と東海道五十三次の道中を歌詞に歌い込んだ民謡「お江戸日本橋」にも唄われた「よねまんじゅう」は、江戸時代、鶴見橋の袂に軒を並べて売られており、東海道の名物第一号とされたほどの人気だったそうです。明治5年に鉄道の開通と共に姿を消すも、昭和57年に鶴見の菓子組合の努力で復活を果たし、清月の鶴見名物「よねまんじゅう」は神奈川名産100選のひとつに選ばれました。ごく薄い羽二重餅で餡を包んだ小さな俵状の和菓子で、白餡、こし餡、梅餡の3つの味が楽しめます。ぜひ一度ご賞味ください。

『丘のまち』

北西部にあたる下末吉台地の東端から続く丘陵地のエリア。県立三ッ池公園、獅子ヶ谷市民の森、横溝屋敷周辺などは今も自然が



御菓子司 清月



御菓子司 清月「よねまんじゅう」

残っています。また、臨済宗大本山総持寺の境内には、日本初の「歯の塚」があります。横浜がW. C. イーストレーキによる我が国の西洋歯科医学発祥の地であることと、臨済宗の開祖である道元禅師の著書「正法眼藏」（洗顔の巻）の中で「歯の磨き方」としてどうしたら歯垢や食べかすがよく取れるかが丁寧に解説されていたこと



鶴見川河口の干潟

からご当地に建立されたそうです。毎年、歯と口の健康週間が始まる6月4日には、抜去歯牙を奉



横溝屋敷の菜の花



「歯の塚」臨済宗総本山総持寺

納し「歯の塚供養」が厳かに執り行われます。「歯の塚」は境内入口付近にあり、自由に見学出来ますのでぜひ足をお運びください。

『海のまち』

京浜運河や埋立地が広がる湾岸エリア。京浜工業地帯の一角でもあり、沖縄をはじめ全国からの人々が移り住み工場などで働く人々が住む街として発展してきました。特に鶴見区は沖縄出身者が多く、沖縄からブラジルやペルーなど南米諸国に渡った人々の子孫にあたる日系2世、3世が親族を頼って多く住むようになりました。その中で「仲通り」には、沖縄料理店や沖縄の食材のお店が数多くあり「リトルオキナワ」が形成されています。また、ブラジル料理、ボリビア料理、ペルー料理、韓国料理といった本場の味わいも楽しめる異国情緒を感じるエリアです。

このように、鶴見は3つのそれぞれの顔をもった、私のお気に入りの「ふるさと」です。

(平成9年卒 宇佐美貴弘)



総持寺 勅使門



大黒ふ頭の夕景

会 員 往 来

「彫塑（彫刻と粘土）、星空写真を楽しむ」

堀 川 拓 郎（平成10年卒）

幼いころから粘土遊びや工作が好きでした。小学生の頃は昆虫や怪獣などを、粘土や紙を使って作っていました。小学6年の時に紙と段ボール箱で作った、身長約110cmのゴジラは、今も頭部だけは大切に保管してあります。

高校生の頃、美術の授業で針金を曲げて骨組みを作り、粘土を盛り上げて人形を作ることを教わりました。もともと、プロレス、格闘技が好きだったので、早速好きなプロレスラーの人形を作成。それからは年に数体ほどの割合で人形を作り続けてきました。

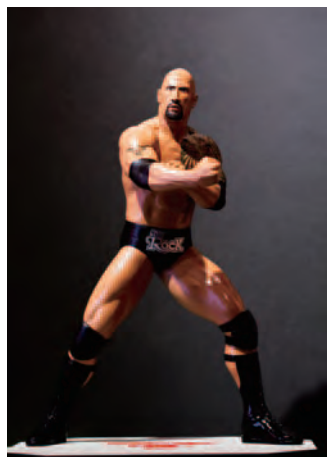
東京歯科大学に入学し、美術部白亜会に入部。あまりクラブ活動には顔を出しませんでした。学園祭には恐竜やプロレスラーの人形作品を展示していました。

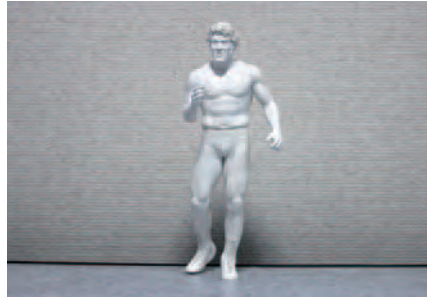
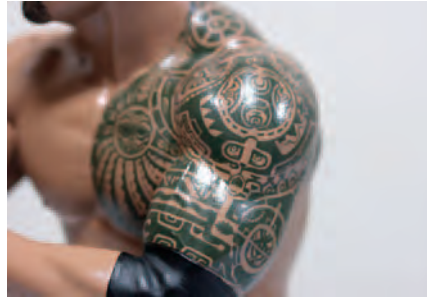
大学卒業後、市川総合病院オーラルメディシン講座入局中の3年間はあまり人形を作っていません



でした。その後、地元香川県の歯科医院に勤務し数年たったころ、フィギュアの世界では超有名な、海洋堂のフィギュアミュージアム黒壁龍遊館（滋賀県長浜市）を訪れる機会があり、人形でここまで作れるものなのかと衝撃を受けました。その後、地元香川県や高知県でも海洋堂の展覧会が開かれ、超リアルなウルトラマン、仮面ライダー、ゴジラ、動物などのフィギュアを見ているうちに、自分で

もこんなリアルな人形を作りたいとの思いがふつふつと湧きあがってきました。そのころ、一時冷めかけていたプロレス、格闘技への情熱も再燃し、好きなプロレスラー、格闘家の人形を自己流で作りはじめました。たまたま、恐竜フィギュアで有名な原型師さんが近くに住んでいると聞き、メールで自分の作品を見てもらい、アドバイスをもらいました。アドバイスをもとに粘土や道具などを除々





に変更，改良していきました。細かいところをしっかりと作りたいあまり，時間がかかりかかるとなってきた，最近では一体完成させるには半年くらいかかります。

ある日，趣味で油絵を描いている父親が，一緒に展覧会をしないかと声をかけてくれました。今まで，人前に展示することなど考えもしなかったのですが，これもいい機会と思いやってみることにしました。2011年3月，香川県文化会館にて「油絵&フィギュア展」を開催。初めて，多くの方々に自分の人形を見てもらうことが出来ました。

話は変わりますが，小学生のころより星空にも興味がありました。高校生の頃には望遠鏡も自分で購入し天体観測も行っていまし

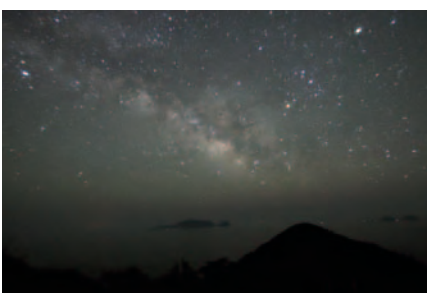
た。しかし，大学入学と同時に興味が薄れ，星空を見上げる機会はほとんどなくなっていました。ところが，数年前，偶然ある若いカメラマンの方と知り合いになり，写真を見せてもらったり話を聞いたりしているうちに，突然，カメラで星空を撮りたくなってきたのです。たまたま入ったカメラ屋さんで一眼レフカメラが格安で売られているのを見てすぐに購入し，早速，星景写真（星と風景の写真）を撮り始めました。初めて星が写った時は感動で震えるほどでした。高校生の頃に望遠鏡を購入したのはいいけれど写真撮影まで出来ていなかったことを思い出し，その後新たに望遠鏡を購入。天体写真の撮影も開始しました。オリオン大星雲，プレアデス星団，ア

ンドロメダ銀河等を初めて写した日は本当に感動しました。

最近になり，知人の勧めで何度か展覧会に人形を出展。その後は様々な人たちとのご縁があって，2014年11月4日～11月30日までの一ヵ月間，「堀川拓郎 星空写真&彫塑展 ～時空～」と題して個展を開くことが出来ました。

個展では，ご来場いただいた様々な方々との交流も大変楽しいものでした。また，個展の準備をすること自体が一つの作品作りのようだと実感しました。

まだ作りたいもの，撮りたいものは数えきれないほどあります。これからもライフワークとして人形作り，星空写真撮影を続けていこうと思っています。



5. 2 南阿波サンライン第4

12. 28. 29 かもがわ公園観望会

千葉校舎でのアクティビティー

文：茂 木 悦 子（昭和50年卒）
写真：橋 本 貞 充（昭和56年卒）他

大学の移転後、東歯祭も水道橋となりました。そこで千葉校舎では、病院、衛生士校、事務部が結集し、平成26年10月25日（土）千歯（チバ）祭を開催しました。ネーミングのアイディアは衛生士校生によるものです。模擬店や歯磨き指導コーナー等が設けられ、講堂ホワイエでは4部門に再編された臨床部門の紹介ポスターが展示されました（これは現在各科順番にロビーギャラリーの一部として展覧しています）。同時に講演会も開かれ、大学主催の井上孝千葉院長による「口腔の健康から健康寿命を考える」と題したユーモアあふれる楽しいお話、千歯祭主催としてプロフェッショナルチアダンスチーム、東京ガールズの「健康体操と笑顔の作り方講座」、株式会社タニタの鹿沼敦子管理栄養士による「健康食品からの健康維持」など、すぐ役立つ盛りだくさんのプログラムにご来場の皆さんも大喜びの様子でした（写真1）。

一方、最近、千葉病院では患者サービスの一環として第395号、396号でご紹介しましたロビーコンサート他、ロビーレクチャーを行っています。

第1回は昨年平成26年4月19日（土）に、千葉県の郷土料理として伝承されている太巻き寿司（写真2）についてその歴史と作り方を千葉県保健医療大学の杉崎幸子先生にお話ししていただきました。写真に示すように、巻きずしで花、動物、文字などが表現されています。この太巻き寿司が千葉県発祥とはつゆ知らず、見てよし、食べてよし！7月の医療連携講演会でも振舞われ、好評を博しました。

第2回は9月20日（土）、摂食・嚥下・リハビリテーション科の杉山哲也先生の「目指せPPK！おいしく食べて生涯元気」と題した講演（写真3）でした。杉山先生は「平均寿命が男性79歳、女性86歳を超える現代の日本ですが、最期まで元気で、食べ



（写真1）



(写真2)

たいものをおいしく食べて逝く、すなわちピンピン・コロリ（PPK）が理想と言えるのではないのでしょうか？と始まり、そのためのお口の健康の保ち方、加齢による飲み込む機能の減退の予防策や自己点検法などについて分かり易く話され、ご来場の皆さんも頷くことしきりでした。先生からは摂食嚥下が困難な人のための軟らかい介護食のご紹介があ



(写真3)



(写真4)

り、カレーやマーボごはんなどもラインアップされているのには驚きました。

さて第3回は年が変わり、つい先だったの平成27年1月30日（土）、スポーツ歯科の中島一憲先生による「正しい噛みあわせでからだ生き生き」（写真4）がありました。「正しく噛む」ということが、全身機能やスポーツに関係し、健康の維持にも影響を与えること、健康の増進につながる正しい噛み合わせ、運動能力向上のための噛むことの効用を、テレビ出演での動画を用いて数多く示され、大変面白く説得力がありました。それにしてもガムで有名な某社では最近ガムの売れ行きが落ちているそうで、その理由として若者が噛むのがめんどくさいと感じていると説明されたのには驚きました。

知り尽くしていると思う歯科でも専門の話を聞くとまた新たな発見が有るものです。これからもロビーイベントを開催して参りますのでお時間がありましたらどうぞ千葉病院へお出かけください。（メールアドレス等お教えいただければ開催日時をお知らせします）

最後にロビーギャラリー（写真5）をご紹介します。

もちろんこれまでも病院ロビーの壁に写真等を展示していましたが、今回は水道橋病院総合診療科の堀田宏巳先生からご提供いただいた日常のスナップ写真を展示しております。特に3匹の猫ちゃんのショットが愛らしく、足を止めて見入っている患者さんをよく見かけます。好評につき3月まで展示する予定です。この後3クール分程出展者の予定が決まっております嬉しい限りです！どうぞお楽しみに！



(写真5)

医はこれ済生 ひとへに仁なり



副会長

藤 原 元 幸

東京歯科大学の校歌として我々同窓はだれでも知っている言葉であります。これを作詞した北原白秋先生は一般の人から見て「医」のイメージとして真っ先に浮かんでくる言葉が「済生」と「仁」で、しかも最も重要な言葉として選んだのだと思います。

校歌を歌うときには「校旗は燦たり 風ひるがへれり」と「医はこれ済生 ひとへに仁なり」を繰り返し言葉として発することが東京歯科大学の原点として体にしみこんでいくと多くの同窓の先生がたが感じているのではないのでしょうか。

さてその「済生」ですが、今回パソコンで文字を入力していったら、「済生」の文字が変換できませんでした。そこで辞書を開いてみると、小学館、旺文社の国語辞典にはなく、この言葉は一般的ではないのかなと思いながら角川の国語辞典を見たら、そこには載っていて、とても安心しました。そして広

辞苑にも載っているのを見て、業界の造語ではなかったのだと確信しました。

この言葉は医療関係の人には必ず頭の中に入っていないといけないものと、私は考えるのですが、皆様はいかがお考えになるのでしょうか。

「済生」とは生命を救うことと前述の辞書には載っています。最近、歯科において「済生」はとても重要な考え方になってきています。それは我々歯科医が担う歯や口腔の健康の維持が、生きていく上でのQOLの向上や、いまや高齢者の死因の3番目となっている肺炎の予防に寄与しているからです。このことを予見することができたのか、それとも医療の理想型としてのあり方をこの詞に込めたのかを想像するしかないのですが、校歌としてすばらしい言葉を使って頂いていると思っています。

「仁」、広辞苑によると、孔子の教えを一貫している政治上・倫理上の理想。博愛をその内容とし、一切の諸徳を統べる主徳。とあります。医はそもそも仁術であったはずですが、校歌のこの歌詞を頭の片隅に置きながら、算術になってしまった医術を仁に戻すのも我々同窓の務めではないのでしょうか。

また、校歌の一番から四番まで次のようになっています。一番：我が師と見（まみ）えむ。二番：我が師を讃（たた）へむ。三番：我が師を繞（めぐ）らむ。四番：我が師を護（まも）らむ。すなわち、東京歯科大学に行ってこの道の師と賞賛すべき方にお目にかかり、その徳を賞賛し、繞って（囲んで）教えを受け、ずうっと教えを受け続けられるようにお護りしようというまさにアカデミア構想なのではないかと思います。

校歌の歌い出しは「校旗は燦たり 風ひるがへれり」であります。我々同窓は校旗の基で医の原点を謳い、我々が何をなすべきかを常に考え、先輩の教えを伺い、それを後輩に言い伝えて行こう、と言うのが東京歯科大学の校歌であると思います。

最近はグローバル化に合わせて、表面だけをスーッと見る経済性中心の世の中になってきています。全ての人が謙虚な気持ちで過去を認識し、そして真実を探究し、正しく判断できる世の中であることを願い、今回は東京歯科大学の校歌を北原白秋先生の自筆の物を見比べながら、久しぶりに辞書を引きながら思ったことを述べてみました。

今年も同窓会活動に沿った活動をして参りたいと思っております。どうか宜しくお願い申し上げます。

新春学長座談会

東京歯科大学 井出学長との座談会

日 時：平成27年1月15日

場 所：水道橋校舎本館 5階 法人役員室

出席者：

井出吉信 東京歯科大学学長
矢崎秀昭 東京歯科大学同窓会会長
宮地建夫 東京歯科大学同窓会副会長
浮地文夫 東京歯科大学同窓会副会長
財部正治 東京歯科大学同窓会副会長
臼田 準 東京歯科大学同窓会広報部・
広報委員会委員長



司会 只今より新春恒例の井出学長と同窓会役員との座談会を始めさせていただきますと思います。同窓会からの出席は矢崎会長、宮地副会長、浮地副会長、財部副会長、司会進行は私、同窓会本部の広報部広報委員会委員長を務めています臼田がさせていただきます。それでは、まず初めに、矢崎会長から一言お願いします。

—大学の現状—

矢崎会長 本日はご多忙のところをまことにありがとうございます。

水道橋に移転し1年経過しましたが、まことに、順調に運営されているということを感じております。また、今年は同窓会創立120周年の記念すべき年を迎えます。学長先生には大学の現状、そして、今後の展望などについて、その概要を会員にお話し賜わりますようお願い申し上げます。

井出学長 日頃より大学にご支援頂き感謝申し上げます。水道橋に移転してまいりまして約1年半経過いたしました。千葉校舎から移

転して来た学生も水道橋での勉学に慣れてきたようです。水道橋校舎で入学した学生も既に3年生となり、また水道橋病院の患者来院数も順調に増えてきております。最近移転の慌ただしさから少し落ち着きを取り戻した感が有ります。然し、これだけでの校舎、病院では十分な教育機関とは言えませんので当初の計画に沿って西棟の建設に取りかかっています。

昨年、11月には建設工事安全祈願祭を行いまして、二期工事が始まりました。今はちょうど杭打ちが始まったところです。二期工事完成までに約2年を要する予定です。西棟には手術室の新設、病棟、歯科麻酔科、歯科放射線科、また障害者歯科、小児歯科、矯正歯科の拡張が含まれています。

まだ理事会、評議員会での決議を戴いておりませんが、今後衛生



士専門学校を短期大学とし、水道橋へ移転計画を検討しております。この計画は、新しい大学を設置することですので、文科省の認可を受けなくてははいけません。順調に進めば、平成29年度の開校を目指しております。

(水道橋に移転して)

司会 水道橋のほうに徐々に移転されて、今は西棟の建設が始まった状況ですが、こちらにきたメリットということも多くあると思います。

宮地副会長 最近の新聞を見ますと、2020年から大学の入試改革があり、センター試験も廃止され、人物の総合評価が主体になると、また学生の質というか考え方が変わってくる。そうすると同窓会もいままで通りに構えているとさらに新会員とギャップがでてくるのが心配です。歯科は専門分野ですので一般の大学とは少し趣が違うのかもしれませんが、その辺、「歯科医である前に人間たれ」という建学の精神と絡めて何か展望でもありましたら教えて下さい。

井出学長 水道橋移転により、学生の質が変わったということは感じてないのですが、やはり、各種の大学が近くに有りますので、学

生間でのクラブ活動の交流が行えたり、お互いに良い刺激を受けることがあるとは思いますが、また、水道橋ですと教員が歯科医師会や他大学に行っても、その日のうちに大学へ戻ることができ、そういう意味では非常に効率的になりました。教育の面では、同窓の先生が非常勤講師として実習を手伝っていただいておりますが、以前に比べて多くの先生にお手伝い頂けております。また同窓会本部が大学内に有る事から、会長はじめ同窓会執行部の先生方が度々大学をお尋ね頂きます。その事により大学と同窓会、学生と同窓会との距離が縮まった様に感ぜられます。さらに卒業生が以前より多く大学にお立ち寄り戴いておりますので、今後大学が生涯教育の場所として大いに利用して戴けると思っています。この事は水道橋移転が非常に良い結果をもたらすものの一つと思っています。

司会 確かにそうですね。こちらにあると、歩いているだけで学生に会ったり、歯科医師会で講師の先生を呼ぶにしても非常に近いというメリットはかなりあると思います。

(期待がふくらむ西棟建設)

浮地副会長 水道橋に来ていただいたということは、やっぱり私たち地元の同窓会としては非常にありがたいことですね。特に今度計画されている西棟の建設によって病院の機能だとかあるいは研究の機能が充実されるということは、これからの医療連携というのはただ単に私たちが病院に患者さんを

紹介して診ていただくというだけではなくて、やはり、高度の知識を持った先生方と一緒に検診をする、あるいは障害者歯科の話も出ましたけれども、そういう中で、重篤な疾病を持った人の訪問診療というようなものも当然一緒にできたら非常にいいことで、医療連携という面から見ると、地元の歯科医としては非常にありがたいことです。そういった意味では西棟の建設というのは非常に楽しみというか、我々にとってはメリットのあることだというふうに考えています。

司会 現状としては、先生、どうなのでしょう。水道橋病院がこちらに移ってきて、多分、患者数もふえて、それこそ教育もしなくてはいけないということで、もう手狭ということでかなり急務という形で西棟建設ということなのでしょう。

井出学長 引っ越してくる1年半前に西棟も完成していればよかったのですが、様々な要因で時間がかかりました。もともと西棟があって初めて大学の機能が満たせると考えておりました。技工室の部分や研修医や学生が自分で練習をするシミュレーション室も西棟に考えております。



(千葉の今後は)

財部副会長 私は千葉県支部所属ですけれども、千葉県の同窓会あるいは歯科医師会の会員は、千葉から水道橋に大学及び病院が移るということで、関心を持ってその経緯を見守っているところです。それで、臆測がひとり歩きして、実際とは違った情報が流れているということも多々あるのではと思いますので、千葉の大学あるいは病院の今後について、先生からもう一度整理してご説明いただくと、千葉県の先生たちもご理解いただけるのではないかと思います。

井出学長 そうですね。移転を計画する際に、千葉県の歯科医師会や同窓の先生方にご説明に参りました。また千葉県庁と千葉市役所にもお話に行きました。特に口腔外科に多くの患者様をご紹介して戴いていますので、引き続き受入れ病院体制を整えて行く事を説明させていただきました。千葉県に於ける歯科の基幹病院の責務を担う積りです。

今後の千葉病院ですが、規模としては今の千葉病院の3分の1位の規模をめどに計画を検討しております。この件は、千葉病院の教員にも説明致しました。それから、現在千葉病院で80人ぐらい研修医を受入れています。今後水

道橋病院のみではとてもその人数の研修は行えません。研修医の病院実習にも千葉病院を活用したいと考えおります。その為にも、ある程度のユニット数は入れて、教室もつくっておく必要がありますが、当然収支の事も念頭に入れなければならないと思っております。

司会 まとめますと、千葉のほうは専門性をもった新たな病院をつくということですね。

井出学長 開業医の先生がお困りになったときには、患者様を紹介していただく等、デンタルメディカルセンター的な、専門的な、特徴のある医療機関を考えております。

(市川総合病院の大切な役割)

財部副会長 市川総合病院のほうで千葉病院の機能を肩がわりするとか、そういう想定というのはないのでしょうか。

井出学長 今まで千葉病院でも口腔がんの症例を診ていたのですが、ご存知のようにがん治療は、医科でも各科の連携が必要な全身疾患です。そういう意味で、市川総合病院に口腔がんセンターをつくりました。口腔がんあるいは全身疾患を有する患者様は市川総合病院で診ましようという方針です。市川総合病院の高野(伸夫)先生は口腔がんの専門です。市川総合病院はがん拠点病院になっていますので、水道橋と市川と千葉の三つの病院の連携を上手にとりながら診療にあたるのが大切になると考えております。

教育の面で、全身疾患や周術期

や口腔ケアという分野での教育の場として市川総合病院を歯科学生にとって大切な教育機関と位置付けています。そこで今、市川総合病院の一部に学生教育の為の教室をつくっています。もともと看護宿舎の一部を改築し教室やシミュレーション室を設けました。シミュレーション室では点滴や採血の実習ができる模型も置いて、看護師と一緒に勉強できる環境を考えており、医師や歯科衛生士や看護師と医療連携が学べる場としたと思っております。

今まで市川総合病院の先生方は、歯科との連携については発展途上でしたが、今度、水野(嘉夫)先生が理事長になられて、水野先生は市川総合病院のことをよく知っていらっしゃると思いますので、市川総合病院の先生との連携が非常によくなり、前とは雰囲気が大分変わってきております。

財部副会長 歯科の研修医が各科に回っているようですが、そのときに医科の先生としてはどこまで教えていいかわからない。指導指針が明らかになると教えやすいのだけという話は医科の先生からお聞きしたことがあります。

井出学長 そうですね。西田(次郎)市川総合病院長は、非常に医科と歯科との連携の必要性を考えていただいております。市川総合病院は今まで以上に大切な歯科教育の場と思っていますので、大学の教務課から教務担当の職員を市川総合病院に派遣する積りです。



(講座の増設)

宮地副会長 これからの学生教育は医学的な面も増えてくると思います。補綴だとか口腔外科の講座を増設するのは、主に病院の機能充実がメインなのか国家試験を含めた学生教育の効果をねらったことでしょうか。

井出学長 両方ですね。きめ細かく指導していくことと、講座が複数あったほうが、競い合い刺激を受けながら指導できると考えております。口腔外科は昔ⅠとⅡでしたが、新しい講座名は今考えていますが、別々の教授を置いて、きめ細かい学生教育と次世代の教員の教育もより充実して戴こうと思っています。

講座をきちんと分けておき、それぞれの講座の教授の年齢差がある事も必要だと思っています。次の各科のリーダーを順次育てて欲しいと思っています。同窓の先生方、補綴系講座が三つとか口腔外科が二つあるということはどう思いますか。

宮地副会長 教育についてはいろいろな角度から専門的に間違いなく教育するという意味で講座がふえたほうが有利だと思うのですが、臨床の場面ですと昔と違ってクラウンブリッジとパーシャルというのが分けられないような臨床が多くなって来ているし、治療手順という臨床を理解させるにはあまり専門・専門で分けてしまうと一口腔単位の臨床が難しくなりそうで、教育と臨床をうまくマッチングさせるのは非常に難しいなとは思いますが、どうでしょう

か。

井出学長 そう思います。診療分野に於いては、講座単位の分野できっちり分けるのではなく、補綴なら補綴分野で、この患者の診療方針はどうするかということを話し合いながら診療を進めていく必要があると思います。それから、私の考えですが、例えばフルデンチャー（総義歯）に入っている人が4、5年経過したら、ほかの講座に移れるようにしていくといいのではないかと考えております。野球でいうフリーエージェント制をつくって、同じ講座に5年いたら受け入れ先が了承すれば他の講座に移って行けるといいのではないかと考えています。

司会 そうですね。過去の講座制は一旦縮小して、必要な講座をあらたにつくりそのとき各講座間の交流をどのように構築できるかということで、先生が言われたようにフリーエージェント制みたいな形をとる。

矢崎会長 医局を移ることは今までの各講座の長い伝統から見るとなかなかそう簡単には動かないと思います。しかしながら井出先生が理想としていることはよく理解できます。例えば講座に所属し、同窓会で現在、毎週のようにやっている症例検討会やセミナーなどに参加するなど、大学の医局の先生と同窓会の学術委員会と組んでやって行くなどの連携が出来ると思います。このような連携をより確かなものにする事により、井出先生がおっしゃっているような、専

門以外の研修が大学に在籍しながら出来るようになり、さらに同窓も講座の先生から専門的な知識を教えて戴けるなど、お互いに多いに研修の実があがるものと思います。

—大学との一体化を求めて—
(300回記念を迎える東歯学会)

宮地副会長 学内にもうけられた東歯学会は専門学会とは少し役割が違うのではないかと思います。研究成果の発表は講座単位で研究が成り立っているという側面があると思いますが、学内の学会はもう一つ病院機能の充実あるいは臨床の質を高め合うというという意味では、できるだけ講座の壁を超えた総合的な目で症例検討ができれば、素晴らしいと思います。そういう学会であれば高学年・臨床研修医・若手医局員も沢山集まってくるのではないのでしょうか？ 水道橋ならもちろん同窓会員も多数参加されると思います。それが発展すると将来開業するという先生方にとっては、2つまたは複数の講座を経験されるのも、おもしろい選択肢となります。境界領域の研究も生まれてくるんじゃないか。それには、学会の機能を研究部門と臨床部門とを意識的に分化してはどうでしょうか？

井出学長 全く先生がおっしゃるとおりです。東歯学会が今秋300回を迎えます。これを記念大会とし、現在プログラムづくりをしています。この記念学会には同窓会の学術を担当されている先生方に参加して頂いております。

宮地副会長 東歯学会の300回記念というのはすばらしいことで、できれば同窓会創立120周年事業の一貫として協力して行きたいですね。

矢崎会長 その120周年に関連してですが、東京歯科大学の歴史を見てきますと、先生が発言された東歯学会の『歯科学報』と同窓会報は一体だったわけですね。当時、血脇先生は校長と同窓会長を兼ねておられ、同窓会と大学は一体になって活動をしていました。

(大学と同窓会とで生涯研修を考えたら)

宮地副会長 学会300回そして同窓会120周年記念ということで、これを機会にこれからの生涯研修の新しいスタートという位置づけができれば「継承と発展」という総合テーマにもふさわしいと思いますね。同窓会単独の生涯研修ではなく、学生・臨床研修だとか専修生、専攻生だとかいろいろの段階を縦にシステムチックに大学と同窓会が生涯研修のカリキュラムが組めれば魅力的な事業になると思います。同窓会も人材育成を重点事業にしている、そういうことが議論できるメンバーで広い視点で話し合いたいですね。

井出学長 そうですね。

宮地副会長 大学は移転や病院建設で大変だと思うので、今すぐということではなく、準備会という感じで、大学が落ちつきだしたころに本格的な生涯研修がスタート

できるように準備を進めれば、これから入学してくる学生にも同窓会に入れば大学からの連続した生涯研修を受けられるというPRできると思います。

井出学長 東京歯科大学の売りは何ですかという事をこれから積極的に広報活動していかなければならないと痛感しております。

今までは、国家試験の合格率が良いですとか、歴史と伝統のある歯科大学ということでしたが、東京歯科大学の特徴は充実した学生に対する教育と研究は無論の事、また同時に同窓会と連携して卒業後も生涯に渡る教育研修を行っている大学だと思います。それから他の歯科大に無い大きな充実した市川総合病院による教育部門などを売りにしていきたいなと思っています。それには、まさしく同窓会と一体とならないとできないことだと思いますので、ぜひ宜しくお願いいたします。

宮地副会長 いきなりシステムを新築するという方法などいろいろな手順が考えられます。いま、学術委員会が何人かで協力し症例相談会・症例検討会というのをやっています。そういう今すでに運営しているものをベースにして、総合的な生涯研修に形作っていくという流れも考えられます。同窓会を入り口にして数年経って費用はかかるけれども専修科生になって認定医や専門医を目指す、そういうルートも示せると思います。

矢崎会長 今回は先ず可能な事から始められればと思います。忙

しい臨床をしながらより専門家としての研修が出来れば、若手の同窓もさらに大学や同窓会との連携が強くなると思います。

(大学の卒業後のコースの紹介を)

井出学長 卒業後の進路のモデルケースのような形で紹介できたらよいと考えております。もちろん最初は、研修医を経て、その後大学院に進む人もいますし、その後、レジデントに進む人もいますし、いろいろな選択肢があると思います。一旦開業した臨床の先生がもう一回学校に戻ってくるための制度を今後検討し、わかりやすい形で紹介していけたらと思っております。

司会 そうですね。同窓会員にもわかりやすい形で紹介したいですね。

井出学長 実は大学には、卒業後に様々な進路がありますが同窓の皆さんには充分にお伝え出来ていなかったと思います。たとえば専修科生や研究生は、卒業何年後でも、3カ月10万円の授業料で専門分野の知識や技能の習得・専門学科の研究を行うことが可能となっています。ICカードで図書館や講座への入室入館が自由に出来ます。解剖講座の例ですと一般専修科生で入学すると、授業を聴講し、解剖実習も参加することが出来ます。

浮地副会長 今のようなシステムをもう少し知らせていただいて。やっぱり、水道橋を卒業研修の一つの拠点として、卒業してから何

年かたってまた自分の専門じゃないものを学びたいということも当然あるでしょうから、そういったところで受け入れていただくと非常にありがたいなと思います。

(同窓会アカデミア研修も学内紹介を)

宮地副会長 同窓会本部の事業の一つは、臨床研修医を卒業し自分の故郷に帰る前に首都圏で臨床修業している人がかなり多いと思いますし、彼らは金額の張る講習会の参加は難しい、平日の多少夜遅くなくても、同窓会の症例検討会だとかに集まってくる。そこでボランティアの先輩とのつながりが生まれる。そこに大学の先生も参加していただくと、すごく幅のある症例検討会ができるのじゃないかなと。

井出学長 大学にも、症例検討会があります。同窓の先生方がその様な勉強会をなさっている事は大学の医局員はあまり知らないのではないかと思います

宮地副会長 そうそう。できるだけ。

井出学長 大学としてもその事が分るように各講座に伝えて行きます。

司会 その辺も今年度から広報委員を派遣して、いわゆる症例検討会に出させてもらって、報告をしてPRしてもらえればというような方向性を打ち出しています。

井出学長 本館の8, 9, 10階で

すか、入り口に学会等のポスターを張るところがあるので、そこに同窓会主催の症例検討会を行っているので、ぜひご参加くださいと貼っておくのも良いかと思います。

司会 最近は若い人の中にはFacebook とかにすぐ掲載しています。大学と同窓会との連携をさらに深め、相互の情報をきめ細かく広めてゆくことが大切であることが確認されました。

(同窓との交流サロン)

司会 そういったことも含めて、ちょっと話を戻させていただいて、西棟建設ということで、西棟ができ上がる、その中に大学と同窓との交流する場所というか、そういったところがあるかどうか、いかがでしょうか。

井出学長 西棟1階に学生の談話室、小規模の講演会、懇親会の出来るスペースを設置する予定です。この場所を同窓の先生方にもご利用して戴こうかと考えております。例えば地方からいらした先生方の待ち合わせの場所にも宜しいのではないかと思いますし、同時に、学生との交流も深まるかと思えます。

(受験生の紹介を)

司会 そのほか、大学と同窓会との連携で何かありますでしょうか。

井出学長 そうですね。今一番心配しているのは、今後の18歳人口が激減して行く事です。今年も志願者が少し減っている感じがして

おります。同窓の先生方に将来の大学を担う良い学生をぜひご紹介をいただければと思っております。東京歯科大学の特徴といいですか、よさをぜひ宣伝していただくことが、今一番、大学が同窓会に望むところなのです。

(120周年記念事業そしてアカデミアへの協力を)

司会 時間も迫ってまいりました。井出先生に最後これだけはということがございましたら、どうぞ。

宮地副会長 120周年記念で高山先生とか血脇先生の特集を組んでいます。そのなかで「建学の精神」つまり「歯科医師たる前に人間たれ」というあの文章がかなり色濃く出てきて。そうやってみると、生涯研修の中には学術的な話題だけじゃなくて、社会性だとか品位だとかということが東京歯科大学の伝統として今に繋がっている。たしかに先輩の背中をみて私たちも影響を受けてきた。そこで単に症例検討だけじゃなくて、同窓の中には社会性を持った品位の高い人が、全国にはたくさんいると思うんですよね。人間教育という戦前の道徳みたいですけど、人材を育成していくことが持続可能な同窓会の唯一の方法といって



も過言ではない。単なる学術だけじゃない、全体をとということでアカデミアという名前をつけて、少しでも注目してもらおうと思っています。ぜひここにも大学のパワーをお借りしたい、ぜひご協力よろしくお願いします。

浮地副会長 アカデミア構想の中に社会保障制度研究会というのがありますが、これは上條先生にも出てきていただきますけれども、同窓生が中心となって、社会保障の中の特に医療問題についていろいろ検討しているわけです。こういった中に、実は我々同窓だけではなくて、ちょうど学士入学をなさってくる学生さんの中に、経済学とか政治学とか、そういった学問を修めてから東京歯科大学に入ってこられるような人がいるとしたら、我々はちょっとそういった学問的な知識に欠けているものですから、そういった若い先

生方に入っていただきたい。それからまた、今後の医療界の状態とかこういったものに興味があるような学生さんで、学士入学じゃなくてもいいのですけれども、そういった人たちも一緒になって来ていただいて、いろいろお互いに勉強し合うと、なかなかいいものができると思うんですね。

井出学長 学士の人には様々な経歴をお持ちの人も居りますし、現役学生にも、医局員にも今後の医療制度について勉強したい人もいます。学生部、教務部の先生方にも良く伝えておきます。

矢崎会長 今後は若い同窓が厚労省などに積極的に入って戴き、行政面から国民のための歯科医療の充実が図れるようになることを多に期待しています。大学もそのような進路もあることを学生や研修医、医局の方々に知らせて戴く

ことを、多に期待しております。

司会 今回は東京歯科大学の将来に向かって、合格率だけでなく、そのほかに新たな魅力という形で西棟建設を含めて、東京歯科大学がますます発展すると思いますので、その辺も我々はぜひ同窓会、アピールしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

井出学長 こちらこそ、よろしくお願いいたします。

矢崎会長 大学と同窓会が一体となって同窓会創立120周年記念事業をやってゆきたいと思っています。そのことにより大学と同窓が一体感をより強くする事ができると思います。 よろしくご協力をお願いします。今日は誠にありがとうございました。



お知らせ

理事会より

- いよいよ120周年の年となりました。各記念関連事業も、急ピッチで進んでいます。
11月29日の記念式典だけでなく、アカデミア事業、記念ゴルフ大会などにもぜひ、ふるってご参加ください。
心よりお待ちしております。

同窓会事業・行事

- 平成27年度東京歯科大学同窓会評議員会
と き 平成27年11月28日（土）
ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）
- 東京歯科大学同窓会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会
と き 平成27年11月29日（日）
ところ 式典：東京歯科大学水道橋校舎新館
「血脇記念ホール」11：00～
講演会：東京歯科大学水道橋校舎新館
「血脇記念ホール」11：50～
祝賀会：東京ドームホテル 天空の間 14：00～
- TDC アカデミア2015
・ 卒後研修
・ 医療教養
・ 臨床セミナー
日程は次ページ参照

地域支部連合会・支部関係

- 地域支部連合会会長の交代
平成27年1月1日付
東北地域支部連合会 穴戸 計一 氏（昭49卒）
前連合会長 藤原 元幸 氏（昭50卒）
関東地域支部連合会 菊地 善郎 氏（昭50卒）
前連合会長 小鹿 典雄 氏（昭49卒）
東海地域支部連合会 加藤 誠康 氏（昭50卒）
前連合会長 西尾 有生 氏（昭47卒）
九州地域支部連合会 友利 隆俊 氏（昭60卒）
前連合会長 岩田 充了 氏（昭52卒）
- 支部長交代
平成26年10月1日付
室蘭支部 合田 功 氏（昭42卒）
前支部長 山本 内匠 氏（昭51卒）

平成26年12月31日付

江戸川支部	須賀 俊二 氏 (昭55卒)
前支部長	川野 浩一 氏 (昭54卒)

平成27年 1 月 1 日付

茨城県支部	大野 勝己 氏 (昭50卒)
前支部長	小鹿 典雄 氏 (昭49卒)
千代田支部	山田 茂子 氏 (昭47卒)
前支部長	川上 光一 氏 (昭51卒)
日本橋支部	福岡 博史 氏 (昭58卒)
前支部長	山 滋 氏 (昭54卒)
板橋支部	岡野 昌治 氏 (昭52卒)
前支部長	須田 希 氏 (昭50卒)
足立支部	奥野 圭子 氏 (昭60卒)
前支部長	茂木 元介 氏 (昭53卒)
横須賀・鎌倉支部	齋藤 一太 氏 (平4卒)
前支部長	谷 繁信 氏 (昭47卒)
北信支部	青木 篤敬 氏 (昭53卒)
前支部長	小宮山能康 氏 (昭52卒)

平成27年 1 月20日付

長崎県支部	田口 知義 氏 (昭59卒)
前支部長	渡邊 修志 氏 (昭35卒)

平成27年 1 月24日付

城東支部	鈴木 雅幹 氏 (昭57卒)
前支部長	久保 秀二 氏 (昭56卒)

母校関係行事・案内

- 第120回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式

と き 平成27年 3 月15日 (日)

ところ 東京歯科大学水道橋校舎新館 血脇記念ホール

- 平成27年度東京歯科大学入学式

と き 平成27年 4 月 5 日 (日)

ところ 東京歯科大学水道橋校舎新館 血脇記念ホール

- 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業式

と き 平成27年 3 月 6 日 (金)

ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂

- 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式

と き 平成27年 4 月 3 日 (金)

ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂

- 平成27年度東京歯科大学学会

第299回例会 平成27年 6 月 6 日 (土) 東京歯科大学水道橋校舎新館

演題締切 4 月 8 日 (水) 正午

平成27年度 理事会・常任理事会, TDC アカデミア2015, 広報部広報委員会
年 間 開 催 日 程 表

理事会・常任理事会		TDC アカデミア2015		広報部広報委員会	
開催日	区 分	開催日	セミナー名	開催日	作業内容
1月14日(水)	第1回 常任理事会	1月29日(木)	医療教養 リベラルアーツ・リレー講座	1月16日(金)	2月号編集
2月21日(土)	第1回 理事会	2月26日(木)	医療教養 フロンランナーセミナー	2月13日(金)	2月号編集
3月18日(水)	第2回 常任理事会			3月16日(月)	120周年
4月18日(土)	第2回 理事会	4月2日(木)	医療教養 口腔保健オープン・フォーラム	4月10日(金)	120周年
		4月25日(土)	臨床セミナー エ ン ド セ ミ ナ ー		
		4月26日(日)	臨床セミナー エ ン ド セ ミ ナ ー		
5月20日(水)	第3回 常任理事会	5月17日(日)	卒後研修 ベーシックセミナー	5月15日(金)	6月号編集
		5月21日(木)	医療教養 口腔保健オープン・フォーラム		
		5月31日(日)	臨床セミナー ス タ ッ フ セ ミ ナ ー		
6月13日(土)	第3回 理事会			6月12日(金)	120周年
7月15日(水)	第4回 常任理事会	7月5日(日)	臨床セミナー ペ リ オ セ ミ ナ ー	7月10日(金)	120周年
				8月21日(金)	10月号企画
9月19日(土)	第4回 理事会	9月10日(木)	医療教養 フロンランナーセミナー	9月11日(金)	10月号編集
		9月12日(土)	臨床セミナー 補 綴 セ ミ ナ ー		
		9月13日(日)	臨床セミナー 補 綴 セ ミ ナ ー		
10月24日(土)	第5回 理事会			10月9日(金)	12月号企画
11月25日(水)	第5回 常任理事会	11月8日(日)	臨床セミナー 矯 正 セ ミ ナ ー	11月13日(金)	12月号編集
12月19日(土)	第6回 理事会			12月11日(金)	2月号企画
(理事会6回・常任理事会5回)				平成28年 1月13日(水)	2月号編集

東京歯科大学同窓会創立120周年記念

「温故知新 万清楼を訪ねて」

第1回 高山歯科医学院院友会（現東京歯科大学同窓会）

明治28年6月16日 於 芝高輪 料理茶屋「万清楼」

近 藤 保（昭和48年卒）



1. はじめに

平成24年7月に同窓会本部専務高橋義一君から電話があった。「明治28年6月に第1回院友会が『万清楼』で行われた。ここから同窓会がはじまった。芝高輪付近にあると思うが、詳細がわからないので調べてほしい」という依頼であった。そして、資料として「東京歯科大学同窓会 七十年の歩み」を送って頂いた。私自身も興味をひかれ第1回院友会と会場の万清楼について調べることにした。

2. 第1回院友会の様子

「東京歯科大学七十年の歩み」によると明治23年高山歯科医学院（図1）創立後、約5年を経た明

治28年6月16日、第一回卒業式が挙行され、当時在学中の有志が主唱して芝高輪の万清楼（図2、3）で卒業の祝宴を兼ねて院友の集いが開催されたということだ。そしてこのとき参集した同窓が相談の結果「高山歯科医学院院友会」と命名した校友団体を作り、会則を定めて役員を選出したという。第一回院友会の模様が分かる資料として「歯科医学叢談第一号」が紹介されていたので、ここに転載させて頂く。

第一回卒業証書授与式の終わる後、第一回院友会を高輪万清楼に開けり、楼（図5）は高輪の

浦頭に接して品海の砲台を眼前に眺め、漫々たる水は幾多の白帆を泛べて森々涯りなく庭前の樹木は招かざるに習々たる涼風を送りて坐らに炎熱の苦を忘れしむ、場に入りて先ず快哉を唱へしむるもの寔に故あるなり聴て配膳終るや当日世話役の総代として笠原恭三郎氏は卒然として起てり、氏は其特有の巨眼を場の四方に放ち微笑を含んで咳一咳説き出して曰く「同窓相親しむは我も人も均しく望む所なれば啻に日夕学校に面を合わせのみならず折々は一堂に会して懇談余念なきこそ打解て興こそあらめと今回の卒業式も幸い我々三四人同窓懇親会の相談ありしに



図1 明治23年1月（1890年）芝区伊皿子町に敷地1,000坪、元スペイン公使館として使用されていた。ここに本学の歴史がはじまる



図2 明治28年6月16日高山歯科医学院卒業式後に第1回高山歯科医学院院友会を芝高輪にある「万清楼」で発足した

然らばイッソ博く院友を会して院友会となさんとの動議起こり、終に之に一決して夫々の手配に及びたりしに幸に諸君の旧盟を忘れざるあり遠路を事ともせられず斯く多人数の来集ありたるは吾儕の一同に謝する所なり全体宴会の事には不慣れなる吾々行届かざる点は幾重にも諸君の御海容を請はん唯願くは千杯万杯を重ねて万重の愉快を共にせらんことを云々。」(中略)

終わりにて間もなく場の西隅(図7)に屹立し満座の諸君と呼ぶものあり誰やらんと打見れば血脇守乃助氏なり氏は其長身を直立せしめ「本日は世話人諸氏の尽力と来会諸君の御賛成とにより同窓の多年冀望する院友会の第一回を見るに至りたるは諸君と共に吾儕の欣喜に堪へざる所なり願くは本日の会をして竜頭蛇尾に終らしめず第二回第三回より千万回に到らしめんこと我々の冀望に勝へざる所なり本日は都合上扨ろなく会合時を正午と致したる為め諸君の御不自由も多かりしならん又時間の都合上出席を断はられたる方々も多

分にあれば次回よりは必ず夕影と致さん」と述べて終て座に復す特有の切り口上ならんでスラスラと遣て除けられたるは蓋し微醺を帯びるためか終わりに高山紀斎氏は悠然起ち上り開口一番説て曰く「学院諸君多年の冀望と聞えたる院友会も諸君の尽力と賛成とにより首尾よく創立の運に到りたるは小生の祝杯を挙げて諸君と共に慶賀の意を表する所なり院友会の必要云々は茲に喋々を要せず米国の歯科学学校なぞも大概同様の会を設け卒業後研究を重ね友誼を温むるの機関となせり諸君も願くは当初の目的を失はず永く本会の存続を意とせらんことを莫不有始鮮能有終矣とか兎角世間の人情として祭礼的の喧ぎには狂奔する者あれども沈静して後図を纏むる者の少なきが常になれば充分注意して有終の美を完ふするこそ小生の切望する所なり」(中略)ちなみに当日の出席者数は五〇名であった。

その後の院友会の運営状況だが、明治28年11月16日に第2回院友会、明治29年5月2日に第3回

院友会が、いずれも万清楼で開催されている。第3回の出席者数は70余名で急速に発展していった様子が分かる。

当時の東京地方の天候を気象庁に問い合わせてみた。第1回は蒸し暑く曇り、第2回は快晴、第3回は晴れだったということだ。

3. 万清楼について

まず三田図書館の港郷土資料館に「万清楼」について問い合わせた。すると偶然にも万清楼の子孫の方が、度々その資料館を訪れていること、かつて万清楼があった場所が(図2)が、高輪泉岳寺下の第1京浜角(現在高輪ホワイトマンション)だということが分かった。そして七代 石井清吾様、秀子様ご夫妻(図4)とグランドプリンスホテル新高輪でお会いすることが出来た。その際に石井家と家業「万清楼」のまとめをした文書・資料をお持ち頂いたので資料の一部を紹介させて頂く。屋号の由来は初代万屋清右衛門の「万」と「清」を取り「万清楼」になったそうだ。

幕末の文化年間のころより大正



図3 高輪泉岳寺下の第1京浜角(現在高輪ホワイトマンション)である。高山歯科医学院(伊皿子)から万清楼まで徒歩10分である

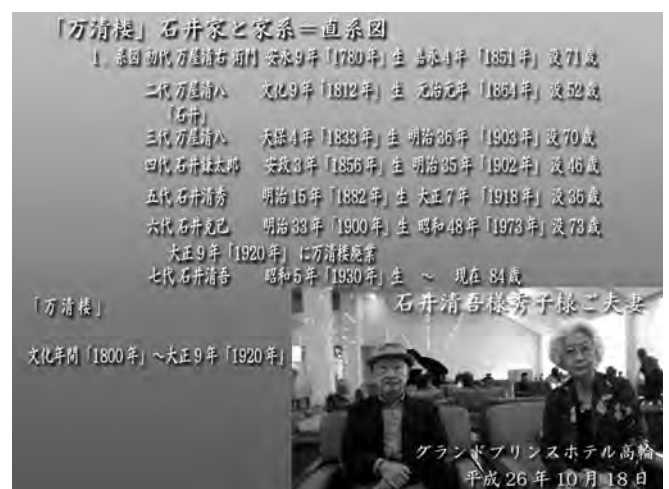


図4 「万清楼」第七代石井清吾様、秀子様ご夫妻。1800年～1920年約120年間芝高輪で料理店を営んで来た商人の記録を現在執筆中

9年まで「1800年～1920年」約120年間芝高輪で料理業を開き栄えてきた。初代万屋清右衛門「安永9年～嘉永4年」1780年～1851年が料理業を始めたのが30歳の時即ち文化10年頃である。以降2代3代4代5代と続き6代「石井克己」が大正9年に廃業するまで120年間に及ぶ特に幕末から明治20年代にかけて2代・3代が当主を務めた時代がもっとも繁昌した時と考えられる。

万清楼の立地は高輪大木戸から品川宿にかけての東海道の海岸通りにあり、江戸湾を見渡す眺望のよい場所である(図2)。また、高輪の地域は幕末の頃外国公使館が集中していた地域でありこの点も商売に影響したと思われる。更に泉岳寺など多くの寺院が集中した場所であった。

用地は車町30・31・32番地

面積937坪(図7)

家屋は木造瓦葺2階建

1階81・50坪 2階75・36坪

付属4棟48坪

江戸時代の後半になると様々な

飲食店の中で料理屋として体裁を整えたものが所謂料理茶屋として認められる様になり安政6年「1859年」の料理茶屋番図付表には約184店が掲載されている(図6)。高輪万清楼も上段から2番目にランクされている。番図付表は安政・文久・明治とあるが当時の主人は2代万屋清右エ門3代石井清八であり、芝高輪地区ではランク入りは数少ない。

当時のお客山岡鉄舟揮毫「万清楼」を来店時に寄贈されたものである(図6)。

又、自転車の挿絵は英人ワグマンが「ジャパン・パンチ」に掲載したもの。明治2年1月号(1869年)一日本に輸入された自転車2台のうちの1台である。絵にあるは「御料理万清」と「外国局は高輪接遇所」である(図8)。

明治になると料理業を営む上で色々の許認可が必要になり、その一部を記載すると

明治11年1月29日

酒請け売り鑑札

東京知事 橋本正隆

明治12年8月4日

料理店営業鑑札

東京府芝区長 相原安二郎

明治28年4月18日

料理店営業許可者

警視総監 園田安賢(図8)

当時の献立は簡素な日本料理が中心であった。即ち、吸い物、前菜、刺身、朱に鰹、鯡など焼魚、煮角、茶碗蒸し、香の物、ご飯という具合で寿司、うなぎ蒲焼、土産物の和菓子等は外部からの仕入れである。酒は豊富で日本酒、ビール、葡萄酒、洋酒全般で現在と変わらない。

4. 第1回院友会再現

前述した「歯科医学叢談第一号」と石井氏が提供して下さった「万清楼」の資料をもとに改めて第1回院友会の当日の様子を再現したい。

明治28年6月16日のことである。高山歯科医学院第一回卒業式に際して祝宴会を開くことになり、これについて、初めは八百枝



図5 嘉永5年(1853年)万清楼より海側景観図と当時の地図と合せ。沖には砲台がみえ右側には品川宿が見える。チョンマゲの人がみえる



図6 安政6年(1859年)料理茶屋として認められ料理茶屋番図付表には約184店が掲載されているが、芝高輪地区ではランク入りは少ない。当時のお客山岡鉄舟より揮毫額を寄贈された

康三、加藤福松、笠原恭三郎、住井雄熹その他の諸氏が相談してこの会を主として生徒の懇親会を兼ねたものにしようとしたが、その後、これがさらに一転して以前からの念願である院友並びに同窓の友誼を温める会合にしようということに衆議一決した。卒業証書授与式終了後、笠原恭三郎氏を世話役総代として芝高輪の「万清楼」に会合を開き、「高山歯科医学院院友会」と命名した校友の団体を作った。午前中、卒業証書授与式終了後に、徒歩で伊皿子坂を下り10分程で高輪泉岳寺下東海道の角「料理茶屋万清楼」に参集した。東海道の往来は大変にぎやかで、東海道の向かい側（図5）は品川沖に砲台がいくつも見え、又、右側には品川宿が見られる。

万清楼の玄関は南向きだ。2階に上がり（図7）大広間で会合が行われた。当日の出席者は50名であった。天候は曇りである（気象庁より）。庭前の樹木から涼風が送られ蒸し暑さも忘れさせられ

る。

当日の料理は鯛の尾頭付きから口取り、吸い物、揚げ物、刺身、焼き魚、うま煮、茶碗蒸し、香の物、酢の物などであったものと思われる。日本酒、ビール、葡萄酒、洋酒、そして、当日出席された歯科器具店主若林唯造氏より麦酒1ダースの寄贈があった。配膳が終ると世話役の笠原恭三郎氏の挨拶後、血脇守之助氏が西隅より立ち上がり「同窓が冀望する院友会が本日の会をして竜頭蛇尾にならずに第二回、第三回より千万回になることを望む」続いて高山紀齊氏が立ち上がり開口一番「院友会の必要は卒業後研究を重ねる機関となるなり目的を失はず永く本会の存続なることを望む。卒業後も学術実地共に研究を重ねることを小生は深く希望します。」と述べ一同杯を掲げた。

5. おわりに

我が東京歯科大学同窓会は今年創立120周年を迎える。今回、その原点となる第1回院友会を当時

の会場まで辿って調べてみるうちに遙か昔の先達の若さや気概といったものが直に伝わってくるような気がした。学術、実地、共に研究を重ねるようとする我々の精神は実は明治28年から脈々とこの会に息づいてきたものである。今後まさに千万回に至るまで伝統を引き継いでいかねばならないと改めて思う。又、皆さんにお勧めしたい。伊皿子坂（高山歯科医学院跡地）より泉岳寺坂下（万清楼跡地）まで徒歩10分、温故知新の散策をしてみてもいかがだろうか（図2）。

最後に今回貴重な資料をご提供くださった石井清吾様、秀子様ご夫妻に改めて感謝申し上げ、小文を結びたいと思う。

参考文献：

- ・東京歯科大学同窓会
「七〇年の歩み」
- ・石井家と家業「万清楼」のまとめ
平成25年7月
- ・石井家文書－資料について
平成26年9月



図7 右上の航空地図は昭和42年当時である。上に泉岳寺境内がある。万清楼は廃業され住居として利用。手前が第一京浜である。万清楼の1、2階の平面図、玄関は南側にある



図8 明治28年料理店営業許可証，警視総監園田安賢。自転車の挿絵日本に輸入された2台のうちの1台である。右が「御料理万清」、左が「外国局は高輪接遇所」である

私の臨床ノート 「欠損歯列をどう見るようになったか」



宮 地 建 夫 (昭和42年卒)

この臨床ノートは、私が経験した欠損歯列の臨床記録だと思ってください。戻れない時代背景や診療室という限られた空間での個人体験が、これから前へ進もうとしている若い先生たちに、なにを語りかけることができるのかと考えると、心もとないものがあります。ただこの臨床ノートから「欠損歯列は長い時間軸」で見ていくべきこと、それは患者さんと長く関わっていくことを意味していることが伝わればと思っています。歯科臨床での“長く”は時代や地域を越えて価値あるものだと思うからです。

(その1) 欠損歯列への目線と咬合三角

1. 欠損歯列の多様性

臨床は個別で多様です。そのためちょっとした捉え方・見方の違いによっては正反対を指向してしまうことは、ありがちなことです。患者は多様で複雑だとしても、臨床対応の手段はそれほど多くはありません。そのことが多様な個別性をいくつかにグループ化していこうとする理由です。どのような目線でグループ化し、どのような臨床的な意味づけをしていくか、それがこの臨床ノートの具体的な目標になります。

2. 病態と対応手段

欠損歯列をみると、いきなりどんな義歯を設計するかに関心が集まります。しかしそれは間違いです。欠損補綴（義歯）は問題に対処する手段ですから、義歯設計の前に欠損歯列という病態を理解しなければならない、そのことを常に念頭に置くことが必要です。欠損歯列と欠損補綴は目的と手段という

関係なので手段が目的に先行することは不自然です。いきなり義歯設計に取りかかってしまうと「対応しようとする病態」と「補綴装置に期待する役割」の間に文字通り齟齬が生まれてしまいます。＜齟齬「上下の歯がかみ合わない事」から「食い違ふ」の意味＞

欠損歯列の病態は2種類があります。

3. “現在の問題”と“将来の問題”

患者さんが来院されたらまず「どうされましたか？」と、今なにが問題なのかを確かめるはずです。歯の喪失によって患者自身が抱えている不便、不満あるいは口腔機能の低下という自覚症状の確認です。それは“患者の問題”であり、いわば“現在の問題”です。欠損歯列はもう一つ“将来の問題”があります。欠損歯列が治癒せず永続する一種の慢性疾患だからで、遅速はあっても不可逆的に進行する疾病だと考えておくべきだからです。“将来の問題”はいろいろな兆候をもとにリスクを推測するという作業ですから患者ではなく“術者サイドの課題”と言い換えることもできます。

4. 欠損歯列と欠損補綴

どんな補綴装置が最適なのかは“現在の問題”と“将来の問題”という2つの病態をどう捉えるか、そしてそのどちら側にどの程度軸足を置くかで、大きく変わってくるはずです。現状把握よりリスク予測は難しいはずですから、欠損歯列の見方では直接間接に“将来リスク”をみる目につながるものが求められるはずです。強調したいのは欠損歯列と欠損

補綴の二つを明確に分け、最初に欠損歯列の病態をどのように掴むかを整理しておく姿勢が大切だということです。

5. 欠損歯列の捉え方

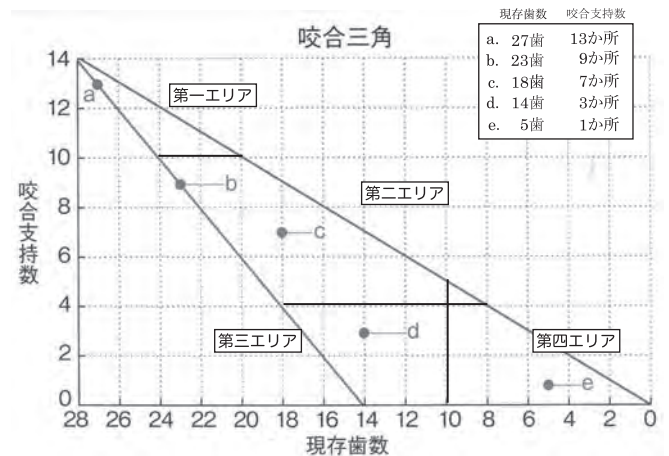
欠損歯列は歯の喪失した歯列なので、歯数が欠損歯列のレベル（進行度）を客観的に計る物差しになると素直に考えていました。臨床でも少数歯欠損・多数歯欠損・少数歯残存など「歯と数」が含まれた言葉で意思疎通が計られていました。そのうち患者の不便、不満あるいは口腔機能の低下は歯の数というより、歯の喪失によって噛み合わせが減少していくことが強く影響していることに気がつきました。そこで欠損歯列という病態の本態を「咬合の損傷」とみなし、咬合支持数を病態のレベル指標にすべきだと思うようになりました。

6. 欠損歯列の流れ

歯数で捉えれば、無歯顎が欠損歯列の終末になりますが、病態の本態が「咬合の損傷」と考えると、歯の数ではなく、「咬合支持数が喪失」したときが終末とみなすように変わってきました。歯数が半数近く残っていても「欠損歯列の終末」と捉えることには、「無歯顎が終末」という従来の見方とはずいぶんギャップがあり、ためらいもし、どのように整合性をとればよいか迷いました。基本的には咬合支持数で捉え、歯の数も無視しないような捉え方を模索し、「咬合三角」という方法を思いつきました。(図1)

7. 咬合支持数と歯数を指標にした咬合三角

咬合三角はY軸に咬合支持数を、X軸に歯数を目盛りに取りました。左上の頂点が28歯で上下14カ所が咬合支持している健全歯列の位置にあたり、右下隅が歯数0で無歯顎の位置です。この図によって歯数を無視することなく、咬合支持数を基調にした病態把握の物差しを手に入れることが出来ました。問題の多かった症例を図上にプロットしてみると、咬合支持数が4カ所以下になると経過の中で多くの問題を抱え出します。そのとき咬合していない歯が多



数あると、さらに難症例になることも分かってきました。便宜的な目安にですが、咬合支持数4・歯数10歯で囲まれた第三エリアを欠損歯列の終末エリアとみなすことにしました。

8. 重症化とリスク

咬合三角から、2つのことが分かりました。一つは咬合支持の減少とともに臨床的なトラブルに悩まされる傾向が強く、重症度を表していること。もう一つは咬合支持の減少は欠損の進行を加速し、“リスク”予測の参考になりそうということでした。“現在の問題”と“将来の問題”は別々にではなく一連の流れの中に存在している病態だという極めてシンプルな傾向を学びました。

文献)

・「欠損歯列の客観的位置づけ」の提案 宮地建夫 日本歯科評論462巻4号 p156-169 1981年4月

・症例でみる欠損歯列・欠損補綴 宮地建夫 医歯薬出版 2011年6月

注) ここに掲載されたグラフの原図がご希望の方は“hk6t-myc@asahi-net.or.jp”へご連絡ください。

次回は、欠損歯列のコース（病型と病期）を説明します。

3回目、4回目では実際の症例についての病態把握と経過の評価について、取り上げたいと思っています。

会務アラカルト

平成27年度がはじまりました。創立120周年記念事業の計画は大山執行部時代から始まりましたが、時の流れは早いものでとうとうその2015年を迎えました。この4月には記念事業の詳細や申し込みのご案内を皆様方にお知らせできるように準備を進めております。記念式典まで9ヵ月ばかりありますが、今から先生方とお会いし歴史と伝統にふさわしい一日をともに過ごせることを楽しみにしています。

11月29日（日）

同窓会創立120周年

記念式典・講演会：血脇記念ホール

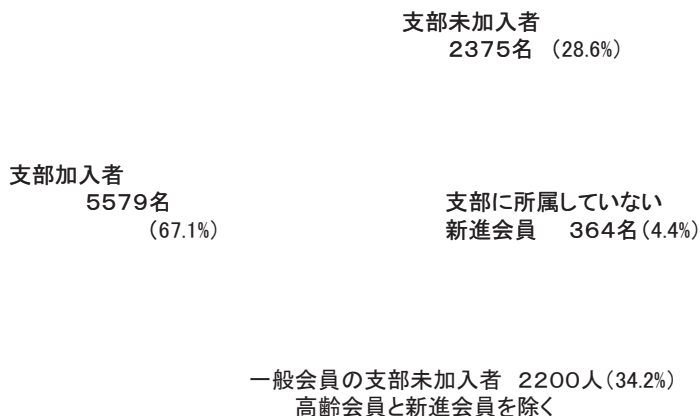
記念祝賀会：東京ドームホテル

そして他にも創立120周年企画を計画しております。記念ゴルフ大会が9月3日（木）に霞が関ゴルフ倶楽部で、また記念囲碁大会も現在計画中です。更に、東京歯科大学学会の300回記念も同窓会120周年記念として協力してゆくことになりました。日程は10月17日（土）18日（日）に血脇記念ホールでの開催になります。多くの同窓が出席していただけるようお願いします。

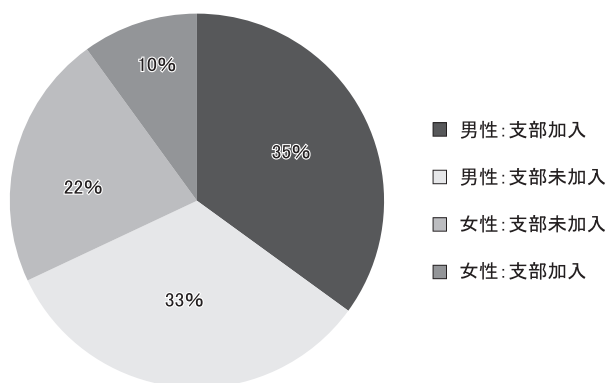
支部加入の推進

同窓会創立120周年記念事業と並んで本年度の重点事業として「支部加入の促進」があります。平成26年度の統計では、8,318名

平成26年度の支部加入状況(8318名)



平成卒の支部加入状況 (男女別) 26. 8. 12



の会員のうち支部未加入会員が2,375人(28.6%)おりました。

平成10年度の数字を見ますと、8,378人のうち1,834人が未加入者で割合では21.9%とおおよそ15年の間に6.7ポイント増えたことになります。実数でいえば500人くらいの同窓が支部に加入しないようになってしまうことになります。全般的に若い年代の先生方が支部に加入しなくなったと言われているのですが、たとえば平成の卒業生で見ていると、確かに55%の同窓が加入していません。その理

由は勤務医の先生方が入らないと説明されていますが、だからといって支部未加入率をそのままにしておきますと、開業しても支部加入しない人が益々増え、支部、連合会、本部の活動にも大きな影響をあたえかねません。

(支部に入る理由)

なぜ支部に入るのか、その答は「そこに支部があるから」というものではありません。長い歴史の中、社会の必要性、そして同窓一人一人の必要性から支部が出来上がってきたのです。そして、その

必要性は、今でもしっかりとあります。「東京歯科大学同窓会創立100周年記念誌」の中に各地区の紹介がありますが、そこにも多くの支部が歯科医師会の存在とリンクして誕生しているのが分かります。歯科医療をしっかりと地域で広げようと各大学の同窓がそれぞれまとまり、歯科医師会の力として各地域の歯科医療の進展へとつなげたのです。同窓会を学閥と否定的にとる人がおりますが、歯科の分野はむしろ学術など全国の同窓会28校による学術連絡会や全国歯科大学懇談会のように歯科界の将来の発展のために連携をとり歯科医師会とは違った角度から重要な役割を果たしています。それぞれの大学には歴史と伝統、そしてそれぞれの建学の精神もあり、大観的にみればそれぞれ個性をもって自由に発展し、同窓会の多様性を形成しています。この多様性こそ貴重で、そこから新しい発想に繋がってゆきます。この同窓会活動の原点は支部での活動にあります。「支部に入るのは当たり前」と思われてきましたが、ここで敢えて支部に入る理由を文字にしてみました。

1. 地域同窓会活動をとおり歯科医師会活動に協力し地域医療の向上をはかる
2. 同窓会をとおり建学の精神にのっとり人間性豊かで社会性のある医療人をめざし、プロフェッショナルな歯科医としての役割を果たす
3. 支部学術活動に企画又は参加することにより、地域の歯科医療の質を高める
4. 大学卒業後、同窓会を通じて

自己研修と後輩支援することにより、プロフェッショナルとしての質担保の社会的義務を果たせる

このように同窓会支部に入ること自体が社会貢献につながってくるのです。

(一医療人としても大切な支部同窓とのつながり)

支部同窓会への加入の意義は、一医療人としても大切です。同窓会報にも今まで多くの先輩方が同窓会の意義を述べております。医療は歴史や文化と強いかわりを持っています。国や地域によって変わってきますし、また患者さん一人一人によっても変わってきます。人間性豊かで社会性の高い医療人としては、まさに一人一人の多様性を尊重し治療や予防を進めていきますが、それこそが診療所としての姿勢となります。診療所づくりを目指す過程では講演を聞いたり本を読んだりインターネットを調べて得た情報だけでは限りがあります。できるだけ多くの人と接し、いろいろ生の話や実体験を聞くことこそ真の情報となります。そのためにも同じ地域に住む同窓の先輩後輩の存在は皆さんにとってかけがいのない宝になるのです。

そんなことから恐らく各地域で支部はごく自然な形で誕生してきたと思います。同窓会組織が支部として定めてない頃の話ですが、血脇先生は多くの支部を訪れ支部に名前を付けております。昔の同窓会の規則の中で「支部」を意味した言葉が登場したのは明治40年の東京歯科医学院同窓会時代でした。「役員の方」で「地方通信員」

という文言が出てきます。そして明治40年10月専門学校になった時代、「地方幹事」という言葉、そして「各地方の状況会員の動静および学術的なことに関する報告」と役割ができました。大正7年の総会で地方支部設置に関しての建議が出されましたが保留に、そしてまた大正9年支部の設置についての議案が提出されましたが会則としては取り上げるに至りませんでした。しかしその間支部ではいろいろの動きがあり、大正8年に九州同窓大会で支部を置くことを決め、血脇会頭が前述のように訪問し各支部に名前を命名しております。大正12年関東大震災で学校は壊滅的なダメージを受けた後、大正14年の総会で支部の設置が決まりました。支部の先生方は、今でもその地域の歴史と伝統を大切にし、若い先生方の支部加入を待っているのです。

(支部加入推進にあたってのお願い)

支部加入に際して、過去の同窓会費の未払いがたまっただけで入れないとか、支部役員のご子息でも「まだ早いから入らないでもよい」とか、同窓の先生方のやさしさからあまり強く勧めない風潮があるようです。「支部勧誘の際、同窓会費の未払いの有無を問わないでほしい」との声が評議員会であり、その後支部加入の際には加入条件としないこととしております。是非加入を積極的に進めるようお願いいたします。そこで3つのお願いがあります。

1. 支部加入に過去の本部会費未払いを問わないでください
2. 若い人に会ったら真剣に支部

加入を勧めてください

3. 若い人に魅力ある支部を目指し、一人でも多くの支部未加入者に声をかけてください

本部としては地域支部連合会や支部との連携をとって粘り強く支部加入策を進めてまいります。

同窓会創立120周年記念よもやま話 (学生会の雑誌を閲覧)

院友会創立当初、会員の中に母校在学学生も含まれていました。昔の卒業アルバムをみましてもその中に院友会の行事の写真も出てきます。明治40年東京歯科医学院から東京歯科医学専門学校に昇格した際、学生会が立ち上がりました。その頃の学生会誌が母校図書館に所蔵してあります。それを通覧してゆきますと、『チワキ』というコラムが登場してきます。執筆者の記載はありませんが、おそらく当時の東京歯科医学専門学校の校長であられた血脇先生のものではないかと期待しますが、ここではそこで見つけました3篇をご紹介します。なお、字体は多

少現代風にアレンジしましたのでご了承ください。あわせて卒業アルバムにある大正から昭和初めの頃の水道橋駅近辺の写真を左側に、そして現在の写真を右側に並べてみました。

チワキ 大正15年7月

『急がば廻れ』という言葉は、今の青年に対する一教訓であろうと思う。明治維新のごとき革命的状態の時代はいざ知らず、あらゆる社会相が大体目鼻がついておる現代においては。矢張り相当の順序があり、無暗に功を急ぐべきものではない。青年時代に急に獲た富とか名誉とかは泡沫となって消えて失せるものが多いが、根底が出来ておらぬためである。

人間一代の仕事は、大抵3、40年を要するのは、普通のことである。急がば廻れの文字はよくよく味わうべきものと思う。

チワキ 大正15年9月

私は馬車馬のように遮二無二に突進したのである。ことの成敗利

鈍のごときは第二の問題として苟も自己の義務と責任との命ずるここには最善の努力を傾倒して驀地驀進（ばくちばくしん）したのである。そこには利害を打算する余裕のごときは微塵もない、ただ一心不乱である。何でもかんでもやれるだけやっつけたのである。

諸君の所謂チワキズムの本態はこれでなければならぬと私自身に思う、水道橋精神なるものも願わくはこれであって欲しい。

チワキ 大正15年10月

支那では古来礼儀3千威儀8千と称して礼儀を重んずるきわめて厳であった。日本もまたこれと同じく殊に封建時代には武士によってこの道は最重とせられ小笠原式のごとき作法さえ生まれたのである。しかるに社会生活の推移に伴い礼儀は漸次閉却せられ現今一部の輩のごときは上下の別を忘れてむしろ不作法をもって正道と心得るものさえ生じた。

ひるがえって欧米の現状を見るに室内で帽子をかぶったまま立談



大正3年



しているような多忙なる生活の片面に紳士としての礼儀は厳として存在している。

因襲的な空虚な形式としての礼儀に私は興するものではない。しかしお互いに生きてゆくこの社会において、みだりに出しゃばった

り無作法を致してしたりすることは慎みたい。心からの礼儀は永遠に人間生活になくってはならぬものだ。

PS 現在の水道橋駅の柱はドイツから輸入した古いレールを使っ

ているのをご存知ですか。製造は明治19年ドイツのドルトムント・ワニオン社によるものです。大正の頃と大震災後の昭和になってと駅の様子が変わってきました。今の写真と比べてみてください。



大正 4 年



大正 7 年



昭和 5 年



東京歯科大学同窓会各種委員会委員

同窓会創立120周年記念事業実行委員会の追加（平成26年12月17日～平成27年12月31日）

高 橋 潤 一（H 4 卒）

事業推進部

第2回新進会員のつどい開催

平成26年11月30日(日)午後1時より、水道橋校舎本館13階第1講義室において、第2回新進会員のつどいが開催された。このつどいは、卒後5年目以内までを対象とした新進会員を対象としたものであり、昨年より開始された。

講演会では、本学同窓である4名の先生にご講演をいただいた。まず、平成10年卒の石川一磨先生より「歯科医院開業～これまでの歩み～」と題した講演が行われた。続いて、平成15年卒の小川志保先生より「女性歯科医師 子育てと仕事の両立」と題した講演が行われた。そして、平成22年卒の吉田光孝先生より「エクソソームを用いた診断法の開発に向けて」が行われ、最後に平成16年卒の菅原圭亮先生「基礎疾患あり！注意しよう、薬剤投与!!」と題した講演が行われた。

当日は、本学の卒業生である新進会員ばかりでなく、現役学生の参加者も見られ、合計で、昨年を超える85名が参加した。

講演会後は、本館14階において懇親会が行われ、新進会員達は、矢崎同窓会長をはじめ同窓会の諸先輩方と交流を交わした。



新進会員のつどいの風景：平成26年11月30日(日)、水道橋校舎本館第1講義室

■第2回新進会員のつどいを振り返って

幹事：荻野崇真（平成22年卒）

今回、「新進会員のつどい」に主催者として参加させて頂きました。開催にあたり、講演内容や開催場所の選出など紆余曲折がありましたが、当日は多数の先生方に参加して頂きました。

この会は卒後5年目までの先生方を主な対象として開催しましたが、参加された先生方の評判は大変良く、感無量でした。懇親会にも多数の先生方に出席頂き、新進会員の知識と交流がさらに深まったことと思います。私自身も若手会員の前向きでアグレッシブな考えに触れ大変刺激を受けました。また、このように優秀な若手会員との交流を通じ、この会が今後さらに繁栄していくことを確信しました。

最後になりましたが、この「新進会員のつどい」開催のきっかけを与え、助力してくださった同窓会役員の先生方に感謝申し上げます。

幹事：野末真司（平成23年卒）

まずはお忙しい中で新進会員のつどいで講演して下さった先生方、準備に携わって下さった先生方、



矢崎同窓会長を中心として、ご講演いただいた先生方、右から石川一磨先生、小川志保先生、吉田光孝先生、菅原圭亮先生：平成26年11月30日(日)、水道橋校舎本館第1講義室

そして参加して下さった先生方へ厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。今回は普段知ることのできない開業までの経験の話や子育てと仕事の両立の話を伺うことができ、また明日からの臨床につながる薬剤の話、そして大学院でされている研究の話と幅広いテーマの中で座長をさせていただきました。

久しぶりに会った友人からは「台本を読んで話しているみたい」とか「オドオドしていて野末らしい座長」という様々なコメントをもらいましたが、最後の質問では笑いを取ることもできましたし、一緒に座長をしてくれた黄地先生や会場の皆様のおかげで無事に終わることができました。

来年は、より一層良い会になればと思っています。

幹事：石川宗理（平成24年卒）

石川先生からは実際に開業する時にどう言うことを考えるのか、また詳しい実情を、小川先生からは女性として仕事と家庭の両立また男性、吉田先生からはエクソソーム研究を通して基礎研究をするということの楽しさそして大変さを、そして菅原先生からは薬剤の注意点、大学人であることがどういうことかを教えていただきました。

これから直面する分岐点に道標をいただけて、とても参考になりました。

幹事：木村基善（平成25年卒）

今回の集いは昨年度とはまた違った切り口で非常に楽しむ事が出来ました。

開業までの詳しい経緯や女性歯科医師の生き方など、卒業して間もない私達が聞いてみたかった内容がぎゅっと詰まっていて今後の自分たちの大きな参考になったと思います。懇親会也大いに盛り上がり、参加者からは「参加して良かった」とたくさんのコメントを頂きました。来年もより魅力あるテーマをそろえ、今年以上に多くの方が参加していただけるよう努力していきたいと思っています。

幹事：田中亜生（平成26年卒）

お忙しい中多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

卒業して1年目の私達にとってこのような大きなイベントに企画運営としての立場で携われたことはとても貴重な経験となりました。

これまでは部活のOB・OGの先生方との関わりのみでしたが、今回の同窓会で私達にはこれだけたくさんの同窓の先生方がいらっしゃるということを実感でき、心強く思いました。この社会に無知な私達の疑問・相談をととてもよく聞いていただける同窓の先生方がいることは、東京歯科大学ならではのことでないかと思います。

今後も名前の通り、この会に人がつどえばと思っています。

■来年度に向けて

幹事：黄地健仁（平成23年卒）

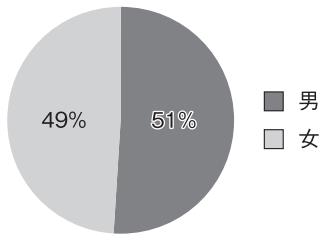
東京歯科大学を卒業して数年が経ちました。たった数年ですが、周りを見渡してみると、母校に残る者、離れた者、夢を追いつける者、現実の中で模索する者、現場の中心で指揮をとる者、現場を離れた者、「歯科医師」である事実が変わりはありませんが、その像は様々だと思っています。

だからこそ、同窓会の様な場を、「久しぶり、元気?」「最近こんな事があってさあ」「今度飲みに行こう」そんな場になれば良いなと思っています。むしろ、そういう場にしたいと思っています。

長い歴史がある東京歯科大学だからこそ、オーガナイザーは若手の僕等です。

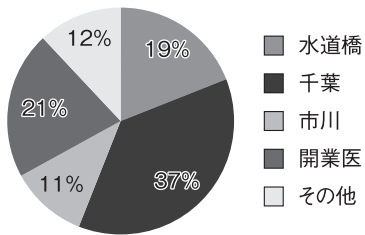


アンケート集計結果



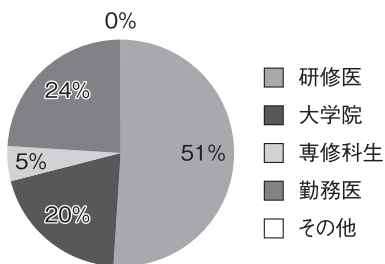
[性別]

参加者の性別は男性51%，女性49%であり，男女差は認められなかった。



[所属]

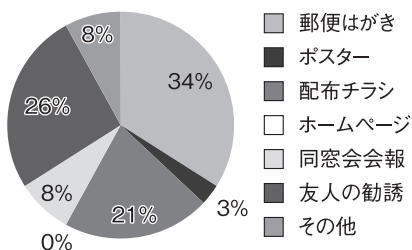
千葉病院からの参加者が37%と最も多く，次いで開業医，水道橋の順であった。



[立場]

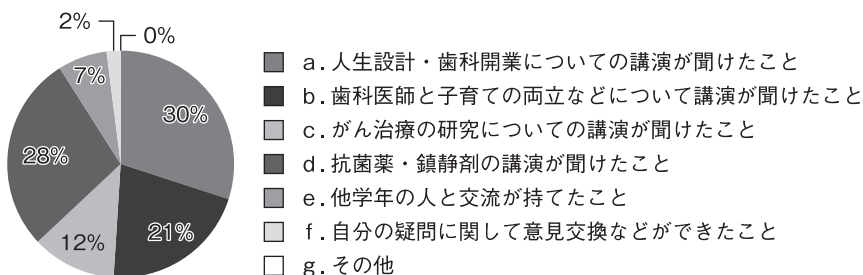
研修医の参加者が51%と最も多く，次いで勤務医，大学院生の順であった。アンケートには繁栄されていないが，登院生の参加者もみられた。

問1：どのようにしてこの会を知りましたか？（複数回答可）



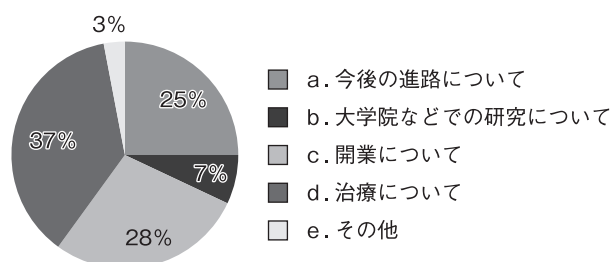
講演会を知ったきっかけは，郵便はがきが34%で最も多く，次いで友人からの勧誘，配付チラシであった。同窓会のホームページと答えたものはいなかった。なお友人からの勧誘は卒業年度が新しい程，高い傾向が見られた。

問2：この会に出席してよかったと思うことはどれですか？（複数回答可）



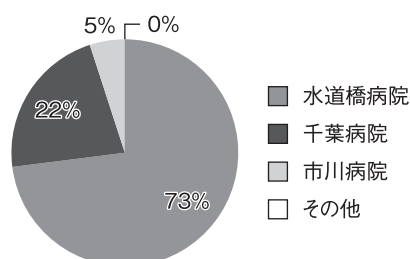
講演会は全体的に好評であり，出席してよかったことは，開業までのプロセスに関する講演が聞けたことが最も多く，次いで抗菌薬について，子育てとの両立についての講演が聞けたことの順であった。

問3：次回の新進会員のつどいで希望する内容はどれですか？（複数回答可）



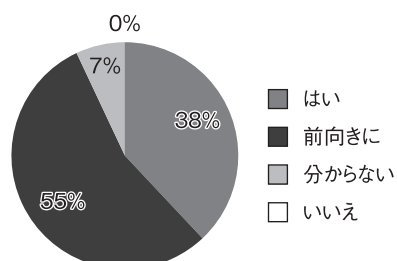
ご希望する内容としては、治療についてと答えたものが最も多く、次いで開業について、進路についての順であった。

問4：新進会員のつどいの開催場所として集まりやすい場所はどこですか？（複数回答可）



今後の開催場所の候補については、千葉からの参加者が最も多かったものの、水道橋病院と答えたものが73%と最も多かった。

問5：来年も出席していただけますか？



来年も参加するかの質問に対し、「はい」が38%、「前向きに考える」が55%であり、「わからない」が7%で「いいえ」は0%であったことから、この講演会が参加者にとって有意義なものだった事が伺える。



●医療教養委員会●

TDC アカデミア 2015 医療教養 リベラルアーツ・リレー講座 第1回

「和食って素敵」

～世界に誇る和食のすばらしさ～

いよいよ、TDC アカデミア2015がスタートしました。その一翼として、去る1月29日に、第1回リベラルアーツ・リレー講座が開催され、お茶の水大学講師、フードコーディネーターの福留奈美先生による、「和食って素敵」～世界に誇る和食のすばらしさ～と題した講演会が行われました。



講師 福留奈美先生

講演に出席して

浜野美幸（昭和61年卒）

リベラルアーツ？私は言葉の意味を知らませんでした。それは、ギリシャ・ローマ期からルネッサンス期にかけての一般教養の基本となった自由七科のことだそうで、文法・修辞・弁証法の3学と、算術・幾何・天文学・音楽の4科から構成されるそうです。そういえば、日本の大学教育では、専門性を重視して「人間としての教養」を軽視する傾向にあることを反省して、最近では大学教育でも改めて教養を見直そうという動きがあるという内容の新聞記事を読んだのを思い出しました。この『リベラルアーツ・リレー講座』は、卒後研修セミナーの新しい試みようですが、福留先生の講演は、正にその言葉通り、日本人として知っているべき「和食の魅力」について、美しい写真を見て、講演を聞いているだけで総合的な教養を身に付けられるようなセミナーでした。先生は、東京都学校歯科医会の「味覚と美味しさの科学」の本の中にもお書きになっていらっしゃいますので、出席できなかった先生は是非ご一読されることをお勧めします。しかし、講演をライブで拝見すると、行間に書かれている話も伺えますし、先生の思いも感じることができます。今後もできるだけリレー参加してみようと思いました。講演について感じたことを少しだけ書かせていただきます。

「和食」というと、まずは健康食というイメージです。和食は旨味を上手に応用して、油脂が少ないというのは知っていましたが、和食は素材を生かすために余計な要素を排除していく引き算で味を作っていきます。それに対し、バターを使うフレンチやラード・ごま油を多用する中華料理は、味のまとまりをつけるために調味料を足していく足し算の調理法というのを知り、和食が健康食である本当の意味を知った気がしました。

またマナーの話も子どもたちに理由から説明できる大変役立つ話でした。例えば、ご飯とお碗の置き方も、日本では「左上右下」が基本ですので、神に供えるお米は汁物より左にあるべきで、従ってお碗は右、ご飯は左になるのを知りました。同様に舞台の上手も左になります。着物も左前、一回聞いたら二度

と忘れない知識を得た気がしました。ところがプロトコル（世界共通の外交儀礼）では、「右上位」と逆になりますので、天皇・皇后両陛下はそれに則って、並んでいらっしゃることも興味深い話でした。

『伝承』というとすぐに“味”を伝えることを想像して、「おふくろの味」というと和惣菜と思います。が、今では日本料理というと寿司、てんぷらに続いてラーメン、カレーと言われるくらいですから、家庭の味もカレーや唐揚げ、味噌汁、卵焼きでも良いと聞き、ほっとしました。私も我が家のベーシックなものを作り続け、しっかり家庭の味として伝えていきたいと思いました。さらに『伝承』という言葉の中には、食事の時間を共にすることで家族や地域と絆を築くという意味もある説明を聞き、改めて世界無形文化財の“無形”が特定のものを指すのではなく、生活様式全体を意味していることが理解できました。現在、孤食などが問題になっていますが、食べ方、食事を通してどのように関わっていくかを考え直さなくてはいけないと思いました。

最後に、福留先生が自分のライフワークとして「日本の食を正しく伝えること。お国自慢ができる子どもを育てること」とおっしゃっていましたが、自分のライフワークを明確にされている姿勢にも尊敬の念を抱きました。

石塚洋一（平成19年卒）

歯科医療の専門家、高度化が進む中で、専門職者におけるリベラルアーツの重要性が再認識されています。「はやく教養のあるにんげんになりたい！」そんな一心で受講してみたりベラルアーツ・リレー講座でしたが、記念すべき第1回のテーマは「和食って素敵 ～世界に誇る和食のすばらしさ～」で、講師はお茶の水女子大学講師・フードコーディネーターの福留奈美先生でした。牧野先生の司会のもと、開会に先立ち、矢崎会長より同窓会創立120周年を記念したアカデミア構想の中でリベラルアーツ・リレー講座を開講したという趣旨が込められた御挨拶を頂きました。福留先生は、東京都学校歯科医会が発行した「味覚とおいしさの科学 ～和の味を子供たちに伝えるために～」の「和食って素敵」の章を執筆された先生で、ご自身がパリのお寿司屋さんで、端的に外国人に日本のお酒と中国の蒸留酒の違いを言えなかった体験から、「日本人の自分が正しく日本の食を伝えていかなければならない！」と思われ、ライフワークにしているとのことでした。

2013年12月、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」は、特定の料理だけをさすものではなく、日本人が長い歴史の中で育ててきた日本の伝統的な食のあり様、すなわち食文化全体をさしていることを知りました。また、講演の中で、農林水産省のWebで公開されている「和食ガイドブック」や、その内容をまとめた「和食が日本文化である理由」と題した動画を紹介していただき、自分も講演後にじっくり視聴してみました。「和食」を単なる食のジャンルではなく、ひとつの文化として見渡してみると、その魅力の奥深さに驚きを感じてしまいます。さらに、「味覚とおいしさの科学」から、1) 日本の行事食、2) 季節を感じる料理 ～四季と二十四節気～、3) 願いが込められた料理 ～縁起をかつぐ～、4) おふくろの味、家庭料理、5) 米へのこだわり、ごはんのおいしさ、6) だし食材とUMAMI、7) 伝統的な日本の発酵調味料、8) 世界に誇る醸造技術 ～日本の酒造り～、9) 日本茶の独自性、10) 和食の基本「一汁三菜」と日本料理の献立、11) 日本の調理法の特徴、12) 世界の和食、について具体的な例をあげて紹介していただき、あっという間の90分間でした。最後に紹介していただいた「農山漁村の郷土料理百選」の中には、まだ味わったことのない料理がたくさんあったので、旅行や学会で各地に行った際には食べてみたいと思います。

今回のセミナーを通して、「和食」について知るだけでなく、日本の独自性、日本のアイデンティティ形成についても考えることができました。2020年には東京でオリンピックが開催されます。日本に来る外国人をおもてなしするためにも、「和食」のすばらしさをもっと語れるようになりたいものです。教養のある歯科医師になれるよう、次回のリベラルアーツ・リレー講座にも是非参加してみたいと思います。

●臨床セミナー委員会●

TDC アカデミア 2015 臨床セミナー 紹介

エンドセミナー 『今こそ見直そう！ あなたの根管治療』

～根管治療の最新知識と基本技術の習得 2日間コース～

講師：木ノ本 喜史（大阪府開業）

日時：4月25日（土） 10：00 ～ 18：00

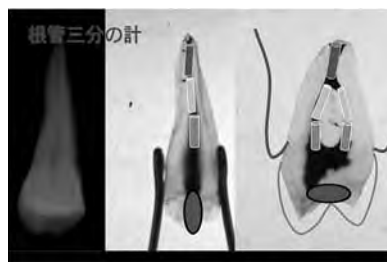
26日（日） 9：00 ～ 16：00

場所：東京歯科大学 水道橋校舎新館8F

受講料：10万円（前年度同窓会費納入者）

12万円

「臨床根管解剖」「根尖病変」の著者、今、話題の木ノ本先生をお呼びして、エンド治療を直々に指導してもらえるセミナーを企画いたしました。根管解剖から髄腔開拓、根管拡大・形成、洗浄、根管充填などの歯内療法的基本的な内容とNi-Tiファイルや拡大鏡などを使用した効率的な術式をお教えいたします。エンドを基本から学びたい方、臨床でお困りの方、エンド治療のレベルアップに繋がることをお約束いたします。奮って、ご参加下さい。



ペリオセミナー 『ティッシュ・マネージメントのファーストステップ』

講師：二階堂 雅彦（東京都開業）

日時：7月5日（日） 9：30 ～ 16：30

場所：東京歯科大学 水道橋校舎本館13F

受講料：5万円（前年度同窓会費納入者）

6万円

本学臨床教授の二階堂先生からペリオ・補綴審美にも繋がるセミナーを提供します。低侵襲の治療としてハード・ソフトの両面からティッシュ・マネージメントを学び、実習を通してソケット・プリザベーション、結合組織移植による歯肉増大術などの臨床テクニックの習得を目指します。一見アドバンスと思われがちですが、粘膜の基本的取り扱いを学ぶことで外科処置のステップアップに役立ちます。歯周外科を積極的に取り組むために必要なテクニックを是非習得しませんか。



同窓会 HP から申込書をダウンロードの上、同窓会事務局へ FAX でお申し込み下さい

準会員のページ

平成27年 武道始め開催

平成27年1月7日、水道橋校舎新館12階において、武道始めが行われました。

以前は、千葉校舎で行われていた武道始めですが、昨年より新校舎において行われています。胴着を身に付けた学生達は、皆、引き締まった表情で、今年一年の躍進を祈願し、文武両道の学生生活をスタートしました。



柔道部 新年の抱負

主将 加藤栄助（4年）



左・加藤栄助（4年）
右・戸村拓真（4年）

我々柔道部は、昨年の全国歯科学学生柔道大会柔道部門73kg以下級におきまして、悲願の個人戦優

勝を果たしました。本年はさらなる飛躍を目指し、部員を増やして団体戦でも結果を出す所存です。

弓 道 部 新年の抱負



星 沙弥佳（1年）

今年から弓道部主将を務めさせて頂く岡崎です。

一本目から己の全身全霊をささげ、悔いのない射が出来るよう努力したいと思います。

更に、今年は全日本歯科学学生総

主将 岡崎寛弥（3年）

合体育大会・弓道部門の主管を務めます。

部員一丸となり、部長の矢島先生を始め、師範、OB・OGの先生方のお力をお借りして大会運営に尽力したいと思います。

少林寺拳法部 新年の抱負



摂津昂斗（1年）

私たち少林寺拳法部の去年度の成績は、デンタルでは1年生ペアが審査員特別賞、医歯薬ブロック大会では1年生ペアが3位という結果でした。入門から半年も経っていない状態でこの成績を残すの

主将 相場一輝（3年）

は簡単なことではありません。日々の修練、および夏合宿の成果をよく発揮してくれたと思います。来年度はこの結果に満足せず、より良い成績を求めて修練に励みたいと思います。

空 手 道 部 新年の抱負



松元秀樹（3年）

上級生の引退により男子が大会の団体組手に出場できなくなったため、まずは新入部員を1人でも多く増やしたいと思います。そし

主将 松元秀樹（3年）

て、大会の組手と形両方で1勝でも多くあげられるように、稽古に励んでいきたいと思っています。

剣 道 部 新年の抱負



左・菊地 済（1年）
右・長門 慶（1年）

2014年は、デンタルで男子団体が予選敗退、女子団体がデンタルで準優勝でしたが、個人戦では結果を残せなかったので、2015年は

主務 北村一磨（3年）

男女ともに優勝、また個人でも上へ上へと部員全員が一丸となって狙っていきたいです。

支部のうごき

近畿地域支部連合会

第65回総会

平成26年11月24日午後1時より和歌山県和歌山市のホテルグランヴィア和歌山にて第65回東京歯科大学同窓会近畿地域支部連合総会が和歌山県支部主幹にて開催され、大阪府支部、兵庫県支部、滋賀県支部、京都府支部、和歌山県支部、ご来賓の先生4名で総勢63名の先生方にご出席をいただきました。

総会では、初めに矢崎秀昭同窓会長より同窓会の現状、取り組み、今後の展望などのお話があ

り、引き続き井出吉信学長より大学の現状、近況報告をお話ししていただき、高橋義一同窓会専務理事からは同窓会のより詳しい内容をお話ししていただきました。

その後、続いて行われた学術講演会では講師に元和歌山県立医科大学歯科口腔外科准教授、和田健先生をお招きし「口腔がん患者の機能温存治療とがんの予防について」と題しての講演をしていただきました。スライドで具体的な症例を提示していただきながら、診査診断、実際の治療法、統計データ

までとてもわかりやすく勉強させていただきました。

懇親会では、来賓、各支部の先生方が入り混じり、ざっくばらんに食事会話を楽しませて頂きました。またその中でマグロの解体ショーも行われ、盛り上がることもに新鮮なまぐろに舌鼓を打ち…としているとあっという間に時間は過ぎ去ってしまいました。

こういう会で世代を超えて色々教えていただき、素晴らしい「東歯らしさ」を再実感できた1日でした。（幹事 田中 久 記）



九州地域支部連合会



総会報告

去る11月8日(土)宮崎県宮崎市のホテルマリックスにおいて九州地域支部連合会総会が開催された。同窓会本部から、浮地文夫副会長、高橋義一専務理事、田部和彦地区理事をお迎えした。当日は推薦入試と重なったため、残念ながら井出吉信学長のご臨席は叶わなかった。

総会に先立って行われた連絡協議会では、評議員定数問題、当番

県事務負担軽減案等が話し合われた。

総会では、物故会員へ黙祷を捧げたあと、岩田連合会会長挨拶、浮地副会長挨拶、高橋専務理事から会務報告があった。

丁度喉が乾いたところで懇親会が開宴となり、宮崎名物の地鶏も炭火焼、チョウザメや伊勢海老のお刺身、宮崎キャビア、宮崎牛に舌鼓を打ちながら旧交を温め合った。

場所を移しての2次会では、参議院議員石井みどり先生の表敬訪問を受け、益々盛り上がった。楽しい時間はあっという間で、次期開催県友利隆俊沖縄県支部長へバトンタッチし、沖縄での再会を約束し結びとなった。

お忙しい中をご出席いただきました先生方に紙面をお借りし御礼申し上げます。(今井弘治 記)



神奈川県支部連合同窓会



平成26年度評議員会・定時総会・研修会・懇親会開催

12月7日(日)午後2時よりローズホテル横浜において平成26年度評議員会・定時総会・研修会ならびに懇親会が開催された。

評議員会冒頭、杉山紀子会長が「今回総会を廃止するため、会則から『総会』という文言をすべて削除するための議案を上程させていただいた。よろしくご審議いただきたい」と挨拶された。

ついで佐藤秀夫評議員会会長が議長として登壇され、各種報告のなかで、今年度逝去された会員のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。

議事では、「総会に係る会則改正の承認を求める件」に対して会場から、総会廃止に伴う一般会員の評議員会傍聴の件について会員の発言の場を求める声が多くあった。また今後最高の議決機関となる評議員会の成立要件について、慎重な検討を求める要望も出された。議事は慎重審議の上すべて可



決承認された。

定時総会は、杉山会長の「これが最後の総会になるであろうが総会を廃止することによって本会の執行に支障が生じないようにする。また島村 大参議院議員に対して同窓だからこそできる支援を引き続き行う」との挨拶で始まり、ご来賓の本部同窓会浮地文夫副会長、水野嘉夫理事長、そして大山萬夫東京歯科大学同窓会島村大後援会会長からそれぞれご挨拶いただいた。

次いで各担当常務理事より諸報告が行われ、すべての議案は採決の結果賛成多数で可決承認され、本会最後の総会は滞りなく終了した。

続いての研修会は千葉県歯科医師連盟会長砂川 稔先生をお招きし、「歯科が日本を救う～歯いずる国、日本～を目指して」という題でご講演いただいた。先生は国政の場で大活躍する島村 大参議院議員の様子を生々しく語られ、「2018年に行われる医療、介護、



医療計画の3者同時改訂こそ将来の歯科医療制度の方向性を決する絶好のチャンスである」と述べられた。

研修会終了後、金子 譲前理事長を始め多数のご来賓をお招きし、盛大に懇親会が開催された。山下正雄相談役の「皆さんも是非米寿までは長生きしていただきたい」と出席者を激励され、声高らかな乾杯のご発声で開宴した。宴途中で敬老祝賀会員への記念品贈呈が行われ、米寿を迎えられた渋谷利雄先生から、かつて海軍の特攻隊員として戦闘機に搭乗していたころの懐かしい思い出話を伺うことができた。また昨秋瑞宝双光章の叙勲の栄に浴した中村佳晃先生は、皇居での親授式の際、間近に天皇陛下に接せられた感激を目を輝かせて語られた。和気藹々のなか時は過ぎ、西山 潔会計担当常務理事のタクトで校歌を斉唱し閉会した。

(広報 渡邊宇一 記)



茨城県支部

平成26年度

総会・学術講演会・懇親会

平成26年12月6日(土)午後1時より水戸京成ホテルにおいて、同窓24名の出席を得て開催されました。高野一夫幹事長の司会のもと、逝去会員2名(泉川 勇先生、金川一郎先生)に黙祷を捧げ、小鹿典雄支部長の挨拶の後、本年秋に瑞宝双光章を叙勲された久保木康輔先生を顕彰しました。

続いて大学来賓として井出吉信学長から大学現況報告がなされ、水道橋校舎本館、新館、さいかち坂校舎における学生の現況報告と、水道橋病院、市川総合病院、千葉病院の各病院の運営収支状況、ならびに本館に隣接して着工が始まった二期計画工事のご説明をいただき、さらに平成27年度本校入試の概要及び平成26年度国家試験の結果発表のご報告を受けました。

次に同窓会来賓として宮地建夫

副会長から本部会務報告がなされ、現在の同窓会の最重要課題でもある、若手支援同窓会対策として、本学学生が属する「準会員」との学内セミナーの開催、卒後5年以下を対象とした「新進会員」との連携・構築された「若手支援ネットワーク」の活動状況、また既存の同期会開催支援や、本部一支部とのIT情報伝達の確立状況についてご報告を受けました。

さらに来る平成27年11月29日(日)、本学同窓会120周年記念式典ならびに記念講演会の開催についてのご案内を受けました。

総会では小野寺宣夫副議長のもと、会務報告等その後議事に移り、平成25年度決算、平成27年度事業計画案、平成27年度予算案、平成26年度関ブロ中間決算のそれぞれ案件の承認を受け、最後に次期執行部の役員改選の承認を求める議案が提出され、大野勝己副支部長が平成27年1月より次期支部

長へと推挙され、満場一致で可決承認されました。

コーヒープレイクの後、学術講演会では、同窓会副会長の宮地建夫先生自ら「欠損補綴の私の見方」と題して、多くの補綴臨床のご経験を基に貴重なご講演をいただき、講演途中には、本県笠間市出身で北海道大学歯学部をご卒業され、その後本学臨床研修医を修了し、現在、同窓会本部の症例検討会にも属されている綱川周平先生がケースプレゼンターとして症例を発表され、その症例を基に将来起こりえる補綴学的予測等をわかりやすく解説していただきました。

記念撮影の後には懇親会となり、顕彰を受けられた久保木先生に乾杯のご発声いただき、美味しい御馳走と少々お酒も入り、終始和やかな雰囲気での交流を楽しみ、校歌を斉唱してお開きとなりました。

(田澤重伸 記)



栃 木 県 支 部

平成26年度 総会の報告

平成26年12月7日(日)に宇都宮市のホテルニューイタヤにて大学本部より井出吉信学長，同窓会本部より小池 修常任理事を来賓にお迎えし，平成26年度東京歯科大学栃木県支部定時総会が開催されました。

総会は湯澤邦裕常任幹事の司会進行のもと，築瀬 真副支部長の開会の言葉で開会しました。逝去会員への黙祷の後，菊地善郎支部長より栃木県支部の現況報告と挨拶をいただきました。その後来賓として東京歯科大学同窓会常任理事小池 修先生より「同窓会の現状」東京歯科大学学長井出吉信先生より「大学の状況」についてご報告とご挨拶を頂戴いたしました。



た。小滝正人先生の議長にて，議事も順調に進み，閉会となりました。

記念講演では三森 修常任幹事司会のもと，『私の東歯時代』という演題にて牟田紀一先生（昭39卒），矢島俊助先生（昭55卒），牟田具城先生（平4卒）の3名の先生よりお話しを頂きました。

続いて部屋を移し，懇親会が行われました。築瀬 昇常任幹事の司会で，来賓の栃木県歯科医師会



会長の柴田 勝先生よりご祝辞をいただきました。落合雅雄先生の乾杯の音頭で宴は始まりました。今回の懇親会には，栃木県支部には入会していないものの県内に勤務している同窓の若き4名の先生にも参加していただき，和やかな雰囲気の中，交流を深めることができました。最後に恒例の平成ゴスペロール隊先導による東京歯科大学校歌斉唱にて終了となりました。（鈴木恵実 記）



千葉県支部

学術講演会・定時総会開催

平成26年12月7日(日)千葉京成ホテルミラマーレにおいて、同窓約70名の参加のもと学術講演会・定時総会および懇親会が開催されました。

総会に先立ち行われた学術講演会では、大学より歯科社会保障学教授上條英之先生をお迎えして「社会保障制度改革と歯科医療サービスの展望」と題しての講演をいただきました。

続いて同じく大学より有床義歯補綴学講座助教 古池崇志先生による「穴あきデンチャーから広がる私の臨床」と題しての講演をいただきました。新しいアタッチメントシステムによる訪問診療のお話をいただきました。

今回は盛り沢山の講演会でデジタルプロセス(株)藤原稔久様による「最近のデジタル技術の動向－最新デジタルデンティストリ CAD/CAM冠」のお話をいただき、日産自動車の技術力・研究力を基盤



としたCAD/CAMシステム。この最初の発想者は故石川達也学長であったことなどのお話をいただきました。

総会は、北浦利明副支部長による開会、高原正明支部長からの会務運営にご理解とご協力をいただいたことに対する御礼を含めたご挨拶がありました。次いで同窓会長矢崎秀明先生より同窓会の現況をふまえたご挨拶をいただきました。続いて大学よりおいでいただいた佐藤 亨学生部長からは女子学生の増加、並びに個人情報保護の難しさなどのお話があり、私たち千葉県支部にとって一番興味深い千葉病院と衛生士学校の『今



後』についての構想の説明がありました。

その後、議長・副議長の選出。スムーズな進行のもと例年と同様につつがなく議事進行いたしました。今年度は逝去会員7名、新入会員10名。総会会員数427名の同窓会となりました。

総会終了後の懇親会は片倉 朗市川総合病院歯科・口腔外科部長にも参加いただきました。毎年参加いただいている白須賀貴樹衆議院議員は衆院選挙中のためご出席いただけませんでしたが、穏やかな雰囲気の中、一同おおいに盛り上がりました。(野田彰久 記)



横浜中央支部



平成26年度 総会・忘年会

平成26年11月29日 ホテルインターコンチネンタルヨコハマグラウンドで平成26年度総会・忘年会を開催しました。

池田嘉徳専務理事の司会進行で安川 浩副支部長の開会の辞、今村雅郎支部長挨拶に続き、来賓の高橋 庸神奈良県連合同窓会副会長に挨拶をいただきました。

その後、総会へと移行し、議長に選出された石川隆司先生の進行

で、会務報告、会員現況報告、敬老祝賀報告が池田嘉徳専務理事より、会計現況報告が成瀬隆弘会計担当理事からあり、議事の平成25年度決算、平成27年度予算も満場一致で承認され総会は速やかに終了し、お待ちかねの忘年会となりました。

横浜市歯科医師会歯科医師連盟の会より駆けつけた森田稔彦先生より挨拶および乾杯のご発声をいただき、宴会が始まりました。横

浜港の夜景を眼下に眺めながら、美味しい料理、お酒を味わいながら、終始和やかに相互に交流を深めました。あっという間の2時間が過ぎ、山田勝久副支部長の閉会の辞、集合写真の撮影の後、散会となり、クリスマスイルミネーションの美しいみなとみらいの街を楽しみながら帰路へとつきました。
(皆川雅彦 記)



横浜鶴見支部

鶴見東歯会忘年会開催

12月13日(土)午後7時より、鶴見の中華レストラン「クーリン」において11名参加のもと鶴見東歯会忘年会が開催された。

10年ぶりに会場を変更したこのお店は40年を越える老舗にもかかわらず店内はモダンな雰囲気。

開会に先立ち、去る11月7日にご逝去された鈴木 裕先生のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。

まず佐藤秀夫会長が挨拶し、香山欣哉先生のにこやかな笑顔で乾杯の発声で忘年会が始まった。

前菜の「クラゲのサラダ」はシャキシャキの瑞々しい野菜とクラゲのコリコリした食感がベストマッチ。炒め物は「海老と新鮮野菜の炒め」プリプリした海老と6種類ものたっぷり野菜が絶妙のとりもと塩加減の餡に絡まり、紹興酒を注文。揚げ物の「油淋鶏」は



カラッと揚げた骨付き鶏に甘い酢醤油のタレがかかった料理。かぶり付きながらお酒も進んだ。お次はお店一番のオススメ「フカヒレの茶碗蒸し」スプーンを入れると中からたっぷりのフカヒレが顔を覗かせる高級茶碗蒸し。暫し無言で啜る。シェフからのサービス「牡蠣のオイスターソース炒め」は大きな牡蠣はとてもクリーミーでオイスターソースがさらに牡蠣の味わいを深める逸品。紹興酒をさらに追加し、メは「中華そば」やさしい塩加減が最高で大満足。



毎年恒例の会員近況報告も行われ、拍手とともにテーブルを一順した。

宴もたけなわであったが、吉田礎久先生の閉会の辞を以ってお開きとなった。(宇佐美貴弘 記)



横浜南部支部

学術研修会開催

今期より当支部初めての事業として学術研修会を行うことになった。第1回は平成27年6月7日、講師はハッ橋孝彰会員で、演題は「エンドについて教えてもらおう」であった。この会が大変好評だったため、続く第2回を、11月8日(土)18時30分より、前回同様田中五郎会員自宅の研修室において行った。講師は再びハッ橋会員



で「エンドについて教えてもらおう Part II」として、NiTi ファイルの使用上の細かいポイントなどをお話しいただいた。講演のあ



と、参加者全員が実際にNiTi ファイルを用いて透明根管模型に対して根管形成を行い、その使い心地を体験した。

平成26年度総会・懇親会開催

平成26年12月13日(土)18時より横浜市金沢区能見台のレストラン「山水」において平成26年度定時総会ならびに忘年会が開催された。

総会は浅川 仁専務理事の司会で開会され、鈴木信治支部長の挨拶のあと、ご来賓の鶴岡裕亮神奈川県支部連合同窓会副会長より連合同窓会の現況、島村 大後援会等の報告を兼ねたご挨拶をいただいた。ついで玉井達人相談役(現本部同窓会副会長)より本部報告がなされた。

引き続き会員現況報告ならびに会務報告を浅川専務理事が、会計現況報告を甲田正治会計担当理事が行った。

議案に移り、平成26年度各種報告が滞りなく満場一致で可決承認された。引き続き協議事項として「会費免除の年齢について」が検討されたが、次期も引き続き検討することになった。

ここで、ハッ橋康平会員の突然

の訃報がご子息の孝彰会員よりもたらされ、一同で故人のご冥福をお祈りした。

総会后、当支部恒例のミニ講演会が行われた。今回は浜野文夫相談役の「三浦半島を一周する旅」という題でお話しいただいた。浜野先生は歴史的に見た三浦に残る古道や、半島南端の城ヶ島に聳立する北原白秋の歌碑などを紹介された。そして軍港の町として栄えた横須賀の「小松」や三浦の「豊

魚」、葉山の「日影茶屋」などを紹介された。

懇親会は山下正雄相談役により、急逝されたハッ橋会員への献杯で開始された。レストラン自慢の料理を堪能しながらそれぞれ懇親を深めたところでちょうど時間となり、山下 誠副支部長の閉会の辞でお開きとなった。

(広報 渡邊宇一 記)



横浜西部支部



秋の一泊総会

平成26年11月19日から20日にかけて恒例の秋の一泊総会が、熱海「花の館染井」にて、泉区、栄区の当番で行われた。今回は11人の参加があった。

総会は、相庭常人君の司会により行われた。まず、佐藤信之支部長より開会のあいさつが、その後、辻村育郎君より会員現況報告、会務報告がなされ、水口浩司君より会計現況報告がなされた。

さらに杉山紀子連合同窓会会長より同窓会の報告がなされた。

総会の後、前本学法歯学講座主任教授であり、現東海大学医学部医学研究科客員教授の水口 清名誉教授のご厚意により「個人識別の事例から」という題目で講演が行われた。

講演の後、宴会場にて懇親会が開かれた。終始和やかな雰囲気で見学を深めあい、宴もたけなわではあったが菅原政道君の閉会の辞

によってお開きとなった。

(渡瀬秀彦 記)



川 崎 支 部

平成26年度川崎水橋会 総会・講演会開催

平成26年12月6日(土)、川崎水橋会総会・講演会が「料亭－牡丹」にて開催された。

冒頭に古賀会長による水橋会今期1年の締め括りの丁寧な挨拶があり、平尾専務の司会進行のもと、フロアーから帛田先生が議長に選出された。名議長により以下、報告・議案は無事に承認され、来年度に希望を持ち水橋会の発展に会員一同協力を惜しまず努力すべく思いを一丸とした。

1. 報 告

- (1) 平成26年度会務報告
- (2) 平成26年度会計現況報告
- (3) 本部同窓会報告

(4) 連合同窓会報告

2. 議 案

- (1) 平成25年度決算について
(監査報告)
- (2) 平成27年度事業計画(案)
について
- (3) 平成27年度予算(案)について

今年度の講演会は「東京歯科大学の学生教育」と題して、補綴学教授 佐藤 亨先生をお招きし、学生部長の立場で大学の近況や歯科医師国家試験合格率 Top を維持している秘訣などを中心に、学生達が真剣に国家試験に臨む姿をビデオや写真などを交えて披露していただき、会員一同驚きやら感

心やら、昔とは厚生労働省の対応を含めた環境・状況の様変わりに腰を抜かした様であった。東京歯科大学が現在の成績を残している大学側の姿勢・教授をはじめとした教育陣・さらには学生達の一致団結した本学特有のスタイルを、改めて認識したすばらしい講演であった。ご子息が本学に在学中の先生もいらっしゃり、身を乗り出して清聴している姿が印象的であった。佐藤教授、本当にありがとうございました。その後、席を替え忘年会が開催され、ほとんどの会員が二次会にも参加したようで、充実した年末の一日であった。(鈴木幸一 記)



神奈川相北支部



平成26年度総会

平成26年11月8日(土)、小田急ホテル相模大野にて相北支部総会が開催された。今回は講演会の講師として、相北支部会員の細田幸彦先生にお願いしました。

総会は、田中恭三副支部長の挨拶に始まり、議長には高橋捷治先生が選出された。

その後庶務報告が菅谷公一理事より、会計報告が小島正裕理事よ

り、監査報告が小原重孝理事よりなされ、賛成多数で承認された。

来賓挨拶では、杉山紀子神奈川県支部連合同窓会会長から本部ならびに連合における今年の出来事などの話があった。

講演会は“老後を楽しく生きるために”と題して、細田講師より鳩レースのために朝早く起きて鳩の世話をしていることや、海外旅行や山登りが好きでもう何回もさ

れていてモンゴルでのトイレのしかたなどのおもしろい話も聞き、とても老後の生き方の参考になりました。

懇親会は元支部長の渋谷利雄先生の乾杯で始まり、例年のごとく全員からスピーチをもらい、おいしい食事とお酒を満喫して楽しいひとときを過ごしました。

(渋谷浩一 記)



山 梨 県 支 部

平成26年12月13日(土)、甲府市内古名屋ホテルにて、東京歯科大学同窓会山梨県支部平成26年度定時総会が開催されました。32名の会員が出席し、井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会会長、記念講演講師として本学平成元年卒の川崎市歯科医師会常務理事 川越元久先生をお迎えしました。

総会は、末木 稔副支部長の開会の辞に始まり、三木正夫支部長の挨拶の後、矢崎会長より同窓会の現状について、井出学長より大学の現状について報告がありまし



た。議事は長久保文夫議長のもと慎重かつ迅速に行なわれ、閉会の辞が金山 昇副支部長より述べられました。

その後、川越先生より「子ども虐待と歯科との関わり～虐待を見逃さないための視点～」という内



容で記念講演がありました。

会場を移動し金山公彦先生の発声で乾杯し、ビール、甲州ワインを飲みながら懇親会が和やかな状態で進み、恒例のビンゴゲームなど楽しく行なわれました。

(矢崎 篤 記)



京 橋 支 部

総会

平成26年12月12日(金)水京会総会・忘年会が東京駅八重洲口の大丸東京 THE TOKYO PHOENIX by HOUMEISHUN で行われました。

最近のここ数年、総会は、現京橋歯科医師会理事の寺田香織先生のご紹介により銀座5丁目 泰明小学校横の老舗中華料理店「鳳鳴春本店」で行われておりました。大きな円卓のある古き良き銀座の佇まいのあるお店でしたが、昨今の銀座地区は、5年後の東京オリンピックに向けての再開発ラッシュとなっており、鳳鳴春本店もビルの建て替え工事をするとのことで一時閉店となりました。よって、今年は数年前に新装した東京駅八重洲口の大丸東京店の12階にある支店(上記)を紹介していただきました。

こちらのお店は、高層ビルの12階にある最新式のレストラン街の中に位置し、大変ハイセンスで上品なお店でした。

午後6時半より、14名の参加者にて、総会が行われました。

総務 池田弥和先生の司会のもと、2年目となる吉田浩一支部長の挨拶に始まり、26年会務報告、27年事業計画と議事進行しました。

昨年10月当会の大山萬夫先生が東京都歯科医師会より、多年にわたる歯科保健事業に携わり、地域における公衆衛生の向上に尽力された功績により、東京都歯科医師会会長彰を受賞されたことを受け、当支部からもお祝いを贈呈させていただきました。

7時から参加人数も増え20名にて忘年会に移行しました。

未入会卒業生の増加、会員の減



少と共に年々寂しくなる傾向の忘年会でしたが、今年は多くの先生にご参加いただき、盛況で和やかな懇親会となりました。

お料理は、程よい味付・盛り付けのコース料理で、大きなフカヒレの姿煮が参加者の話題となっておりました。お酒もすすみ、年末にふさわしい和気あいあいとした雰囲気でした。最後に全員で記念撮影をし、終了となりました。

(五百住守彦 記)



三重県支部

総会

平成27年1月25日（日）松阪産業振興センターにおいて、三重県支部総会が開催されました。

来賓として同窓会本部より同窓会副会長の浮地文夫先生、母校からは千葉病院の病院教授の森永一喜先生をお招きしました。

総会は小林 寿副支部長の司会で始まり、加藤誠康支部長の挨拶、そして同窓会副会長の浮地文夫先生により同窓会の現状、特に若い先生方の同窓会未加入問題、創立120周年記念事業などについて説明をしていただきました。若い先生方の同窓会未加入問題は深刻で、本部のご苦勞がよく理解できました。三重県においても新入会員は10年間に3～4人といった具合で、年々会員が減少しており、少しでも会員を増やす努力が必要であると痛切に感じております。

その後、武藤元支部長による議

事進行のもと昨年の事業報告、会計報告が行われ、さらに今年の実業、予算の承認が全会一致で可決されました。又、今年は東海地域支部連合会の主催県に当たっており会員への出席要請がなされました。

記念撮影、休憩の後、森永一喜先生に「千葉病院における歯内療法紹介患者の処置・対応」と題して講演をしていただきました。はじめに病院の水道橋移転後、あまり話題に上らない千葉病院の現状のお話をされました。患者数は増加傾向で喜ばしいのですが、移転に伴う人員不足で大変だそうです。

そして千葉病院に紹介されてくる歯内療法の難症例のお話に移りました。難症例の原因として1) 感染 2) 根管拡大のやり過ぎ 3) 歯根の破折 4) 歯内吸収 5) 根管の複雑性 6) 根管の見

落とし 7) 穿孔 などが挙げられるそうです。

火炎をくぐらせない綿栓、火炎をくぐらせた綿栓、ペーパーポイントでそれぞれどれくらい微生物が残っているか（感染源になりうるか）のお話は、特に興味が惹かれ歯内療法におけるできる限りの無菌操作の大切さが理解できました。又特に感染根管においては、とにかく根尖を大きく拡大しがちになるので、注意が必要なことも分かりやすくお話ししていただきました。

講演終了後、場所を「和田金」に移して懇親会に入りました。地元の人間でもめったに行けない松阪肉専門の老舗に30名が集まり、楠崎先生の乾杯の音頭で宴会が始まり、世代を超えて和気あいあいと楽しいひと時を過ごすことができました。（宮崎弘隆 記）



愛知県支部

平成26年度 総会

平成26年11月30日(日)名鉄グランドホテルに於いて、平成26年度東京歯科大学愛知県同窓会総会、懇親会が本学副学長の一戸達也先生、本部同窓会常任理事の蛸谷剛文先生にご臨席いただき、45名の会員が集い開催された。

橋本雅範専務の司会進行のもと、杉浦正人副会長の開会の辞に続き成瀬 健会長は以下のような挨拶をされた。「現在、愛知県同窓会の会員数は184名であるが、平成15年当時には234名の会員数であったので、この10年余りの間に50名ほど減少したことになる。会員の減少は本部でも喫緊の課題であるが、愛知県支部においても若い先生方にとって魅力ある事業を企画し積極的に入会のきっかけにしていきたい。次に東京歯科大学同窓会の前身となる『高山歯科

医学院院友会』が1895年に発足して以来、来年で120周年となり11月29日(日)に記念行事があるので出席をお願いしたい。また、来年の6月に参議院議員の島村 大先生をお招きして、政治連盟講演会を開催するのでご参加頂きたい。

以上のような事業を通じて同窓会がさらに活性化し、今後、地域に帰って来るであろう優秀な後輩を受け入れる受け皿となるよう活動をしていきたい」と述べられた。

続いて、今年度ご逝去された9名の会員、3名の会員家族への黙祷が捧げられた後、副学長の一戸達也先生より、大学の近況、愛知県同窓会の子弟の状況、水道橋本館に隣接する西館の建設、新法人の体制、講座の再編成、平成27年入学試験の概要等について等を具体的に分かり易く説明を戴いた。本部同窓会蛸谷剛文常任理事から



は、評議員会報告、一般会務報告、新しい同窓会へのアプローチ、大学との連携、120周年記念行事の案内と120周年を機に新たな同窓会事業を見直した『TDCアカデミア構想』についての説明があった。

続いて牧野健司先生（昭和43年卒）の議長のもと、平成26年度収支現計報告を始め各部から報告がなされた。議事では平成25年度収支決算、母校西館建設への寄付の件等、上程された議案がすべて承認された。また、表彰では平成26年春の叙勲を受けられた3名（文



末参照)の先生方への顕彰がおこなわれ、記念品が贈呈された。

その後の記念講演会では、「敷地への安全性を確保する『津波』『液状化』『集中豪雨』への備え」という演題にて、(株)日建設シビル代表取締役社長である浅見秀樹氏に講演をして戴いた。日建設は東京ドーム、スカイツリー等多くの設計を手がけた日本最大の建築設計の会社であり、浅見氏は山口堅三常任理事の高校の同級生で、稲毛の千葉病院近くに住まわれていた頃に東歯野球部のコーチをしたことがあり、さらに日建設は日本一古い歯科大学の本校と同様、日本一古い設計事務所であり、一時期水道橋病院の上に間借りしていた等、偶然にも多くのご

縁があった。講演では地震のメカニズムから東日本大震災の被害状況、南海トラフ大震災が起きた時の被災状況、備え等、大変分かり易くタイムリーな講演であった。

最後に毎回会員が楽しみにしている懇親会が同会場にて行われ、ご来賓として愛知県歯科医師会副会長の内堀典保先生にご挨拶を戴き、出席者のうち最高齢である橋本京一先生(昭和19年9月卒)の91歳と思えぬ若々しい乾杯!で始まり、和気藹々とした会が催された。宴席では鈴木祥夫常任理事のお嬢様である鈴木奈津子様(バイオリン)、奥様の鈴木令子様(ピアノ)によるミニコンサートが行なわれ、清々しい気分になった会場は大いに盛り上がり、最後に恒

例の校歌斉唱を小関健司理事の指揮の下、10名の平成卒の若手会員が壇上に上がり、熱唱し終わりを迎えた。この若手の先生方の盛り上がりを見ると、血脇イズムが一段と浸透し、ベテランの先生方と若い先生方が力を合わせ、集結する同窓会の息吹を感じさせる会となったのではないだろうか。

愛知県同窓会 叙勲褒章受章者 平成26年 春の叙勲

【瑞宝双光章】

岡田修二 先生 昭和22年卒

【瑞宝双光章】

林 晋 先生 昭和25年卒

【瑞宝双光章】

角倉 功 先生 昭和26年卒

(長谷部雅志 記)

各支部・各クラブ同窓会員へ原稿依頼のお願い!

東京歯科大学同窓会創立120周年記念事業として平成27年6月、10月に記念特集号を通常の会報誌に加え120周年関連の記事を掲載予定です。

また平成28年には記念誌を発刊予定です。依頼内容として各支部、各クラブの発展における歴史的なことなど各時代での色々なエピソード等、もし高山先生、血脇先生にまつわることやお二人の先生に関わった先生方のエピソードがあれば幸いです。

当時の写真等を添えご投稿をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

文字数 800字程度

写真枚数 2～3枚程度

締め切り 6月号 5月10日

10月号 9月10日

記念誌 9月10日

広報委員会委員長 白田 準

クラス会だより

クラス会開催日程

12 期 会（昭和39年卒）

と き 平成27年11月27日（金）～29日（日）

ところ お台場

ホテルグランパシフィック LE DAIBA

いとし会

昭和24年卒

平成26年10月27日、夜来の雨もやみ、曇から次第に晴、暖かい日になった。高齢者の集いには天候が気になる。水道橋駅を出た所で杉浦君と一緒にあった。「結核予防協会のビルがあったね」と言われた。我々が在学時代の面影のあるのは東洋商業（現高校）のビルと水道橋駅のガード位、研数学館のビルもない。

今年の総会は新校舎見学の希望もあり、大学近くの「庭のホテル東京」に決めていた。11時30分会員12名家族1名定刻通り出席、先ずは来賓としてお迎えした井出学長に「大学の現状と未来について」お話を頂いた。御多忙の中



出席頂いた先生に愛用のカメラまで借用させて頂きましたこと御礼申し上げたい。総会は1年間の物故者5名への黙祷、会務報告、熱田理事の挨拶と続き、お酒の飲めない北海道、遠藤君の乾杯で始まり、1時間半悲喜交々、談論風発の宴会、卒後実に65年の思いがそこにあった。最後に幹事の愚痴と来年への願いをきいて頂き、全



員の写真撮影をして散会。希望者は徒歩で新校舎に移動し大学教務課の渡辺さんの案内で見学させて頂いた。月曜故授業中の教室もあり学生時代を思い起こすことも出来た。当日、理事会のため学長と熱田君は途中退席し写真に不参加になってしまい残念だった。

（齋藤 久 記）



上段左より 鈴木（和）、杉本、鈴木（義）、遠藤、齋藤、齋藤夫人
下段左より 神山（五）、和田、杉浦、小山田、山田（英）（敬称略）

五十鈴会

昭和25年卒

先日 同窓会名簿 平成26年版が送られてきました。早速に昭和25年卒のページを見てみると、かつては229名の威容?を誇った五十鈴会も、生き残り58名、掲載も7ページから2ページになってしまいました。戦後の兵役経験者が多く、現在90歳を過ぎた会員もいる年齢構成に大きな差があるクラスで、学生時代は年上に学び、年長者は若さに溶け込む楽しいクラスでした。その関係は今も続き、今年も、今まで、絶えることない会なので、是非という言葉に押されて昨年11月に開会しました。心配していた出席者も13名、奥方4名の17名の楽しい、賑やかな会になりました。奥様方は名実ともに、五十鈴会と会員の心と体を支えて下さる大切な一員になられておられます。

まず、出席者は左から 斎藤、村上、金子、高原、木村、佐藤、小倉、伊藤、望月、大山、大山夫人、早川夫人、森山ご夫妻、早川、白須賀、小倉夫人。(写真1)



(写真2)



(写真3)



(写真4)



(写真5)

会の様子を紹介をすると、(写真2)奥方に頼り切りの森山、「今日は、ゆっくり、気楽に会話を楽しみながら飲めるこの会なので、一番楽しい」、冬はタイのチェンマイで過ごすとか、：白須賀（俺も一緒に??）（さあ??）話は弾む。
(写真3)佐藤康彦 両手に花でご満悦、新潟県新発田市 郷土研究会会長で、野口英世を世に出

した石塚三郎の研究を発表、東歯からも元学長、理事長多数参加、次回五十鈴会で話ししてくれるとのこと。

(写真4) 会員から送られてきた消息に目を通し、語り合う小倉夫人、早川夫人、親密な奥様同士の交流も、五十鈴会を支えている。

(写真5) 大きい鯛を釣り上げる、元気な木村（体操、歩くこと、体を動かす、そして仕事、若い者に負けない気力が大事とのこと）今年の年賀状より。

以上、出席会員の当日の様子を記しました。今年は、同窓会創立120周年記念事業もあり同じ時期に五十鈴会を開催する予定です。是非、元気な顔を見せてくださいますように。

会員の消息、近況などの詳細は、現在編集集中の「誌上五十鈴会」をお待ちください。

(連絡幹事 斎藤季夫 記)



(写真1)

嶺 驥 会

昭和30年卒

嶺驥会の皆さんへ

嶺驥会は、平成21年4月12日に開催して以後、高齢化を理由に正式には開催しないこととした。それから既に6年弱が経過した。最近、足代弘文君と電話で話した時、正式ではなくとも出席を希望する会員が集って嶺驥会を開催したらどうかとの提案があった。何かご意見があったらご連絡下さい。

昨年7月に同期生の元学長石川達也君のお通夜のとき足代弘文君、近藤安司君、松本圭司君の3人と会ったが、こんなときにしか同期生と会わなくなったのかと思うとき、寂しさを感じた。

最後の嶺驥会のとき各クラスの世話人は、全員で7名であった。しかし、その後椎名統次君、松村久夫君、佐藤忠男君が亡くなり、今は4名になってしまった。昨年末に発刊された東京歯科大学同窓会会員名簿によれば、我々大学卒の先輩である一期生と二期生の先生方は、既に半数以上が亡くなっている。これに対し嶺驥会の会員は、卒業当時98名であるが、現在でも名簿によれば、生存者数54名、亡くなられた会員は44名で、生存者の方が多い。ところが名簿発刊後、11月に田中陽一郎君、12月に青柳 信君、佐藤忠男君の3名が亡くなられた。それでも生存者数51名で、亡くなられた会員数よりも多い。

今回、嶺驥会の記事を会報に掲載するに当たって数名の同期生に電話したところ現在でも現役として活躍している人、既に閉院したが悠々自適の生活を楽しんでいる人、一方、少々体調を崩し静養している人など様々であった。

我々は、昭和23年春に東京歯科大学予科に入学し、市川の校舎に通ったが、当時は予科を修了しただけで、中学の教員の免許を取得することができ、この道を歩んだ同僚もいる。また俳優座に入団し、有名になった同僚もいる。我々の時代400mのトラックをもつ運動場の土地には、現在、市川総合病院が建設され、私は、高血圧と糖尿病でお世話になっている。

現在大学は、我々の予科時代に当る教養課目の約2年の教育を、水道橋病院の前の坂を登っていった。お茶の水駅に近い、さいかち

坂校舎で行っているようだ。かつての千葉稲毛の校舎は、病院のみが残り診療を行っているという。歯科の専門教育は、神保町寄りに建てられた新校舎で行われ、診療実習は、水道橋駅に近接する元の大学のところに建設された校舎内の病院で行われているようだ。そして更に我々がよく食事に通っていたトミー食堂の横に西棟が数年後に建設され、すべてが完成するという。

私事ですが、大学を退職して17年になりますが、千葉で日本小児歯科研究会を年4回、東京で町田塾を年2回開催し、全国各地から開業医の先生が参加しています。また退職後に咬合誘導に関する著書を2冊、乳歯歯内療法の著書を1冊出版しました。今年1月には7つ星の列車に乗って九州を旅行してきました。皆さんにお奨めのコースです。（町田幸雄 記）



平成23年7月23日 最近集まるメンバー（らくがき会）

十 期 会

昭和37年卒

平成26年度の十期会総会は、総計34名の参加を得て、去る10月25日(土)帝国ホテル東京で開催された。昨年や一昨年の総会での会員の意向により、今年度からは、利便性を考え、東京で総会を行い、当日や翌日のイベントは行わず、各自で自由にお取り頂けるようにとの趣旨で企画を致しました。

午後5時半頃から集まり始まった懐かしい顔々。総会の前に記念写真に納まり、6時より総会を2階「鶴の間」で開催した。山内英徳会長の挨拶に続き、議長に金山公彦君を選出、庶務・会計報告を中村靖夫君が行い、人生を全うし、ひと足先に旅立たれた、この1年間の逝去者(皆葉寿樹君、勝田英和君、中井一仁君、梅津文男君、平井茂重君)5兄の御霊のご冥福を祈り黙祷を奉げた。名議長役の金山君の慎重な上にも迅速な議事進行で協議事項に入り、「今後も東京の幹事会に一任する」とのことが決まり、幹事会より会員に忌

憚らない意見を求めると、

- ①総会の開催曜日を変えてみては…?
- ②最寄駅からの移動距離を考えて欲しい。
- ③落ち着いた雰囲気のホテルはいいか?

等々の率直なご意見を頂き、喉の渇きを気にしつつ、佐々木さんの閉会に続き、中村君の司会で懇親会に入る。高江洲君の乾杯の音頭で始まった懇親会では、美味しい御馳走に舌鼓を打ち、円卓を囲み、和気あいあい旧交を温め、各々の近況や懐かしい話に華を咲かせた。楽しいひと時は短いもの。最後に恒例の石井君のフルート・佐々木さんのバイオリンの音色にのせて、野間・高江洲両名誉教授の音頭で、校歌斉唱を行い、堀江さんの閉会に別れを惜しみつつ、来年の再会を誓い合い、各自想い出を胸に、全員帰宅の途に着いた。

「次回もまた、東京で行う」とい



うことですので、今回やむなく参加できなかった会員も次回(平成27年)の総会には、是非ご参加をお待ちしております。

参加者(敬称略);

安部井寿人・陽子, 金山公彦・良子, 小室 甲・明子, 高江洲義矩・英子, 瀧 義孝・瑞枝, 野間弘康・歌子(以上同伴組12名)

石井秀人, 岩渕 徹, 佐々木協子, 笹本允明, 下井直彦, 清野比奈子, 関口威身, 高梨玲子, 永井栄子, 中村靖夫, 初鹿繁和, 花上弘昭, 堀江典子, 松坂 泰, 松山美念子, 茂木洋子, 矢内 融, 山内英徳, 山崎頼任, 山本貞之, 横田秋三朗, 飯塚正人(以上単身組22名)

(飯塚正人 記)



踏 志 会

昭和41年卒

平成26年11月15日(土)・16日(日)に名古屋マリオットアソシアホテルにて44名の参加をえて、山本芳隆君を幹事に名古屋の地で第49回踏志会のクラス会を開催しました。

総会に先だち、昨年のクラス会後鬼籍に入られた小川敏彦君、進藤 修君、野村昌志君、橋本高明君に対し黙祷を捧げ、在りし日のお元氣な姿を偲びました。

上竹会長の挨拶のあと議長に臼田君を選出し、議事を進行し可決承認され総会を無事終了し、次回第50回の節目のクラス会を、東京で開催することを決定し、16階アイリスにて懇親会となりました。

城所 繁君、藤城鐵英君の進行でそれぞれ久しぶりの再会で近況



報告し、たのしいひと時を過ごしました。

二次会は、場所を移し52階のジーニスにて素晴らしい名古屋の夜景を見ながら、旧交を温めました。

翌16日は朝8時40分より名古屋市内観光へと出発しました。最初に威風堂々の名古屋城本丸御殿の復元なった玄関、表書院を見学しました。

その後、新装なった愛知県歯科



医師会館の「菌の博物館」を見学し、栄の料亭「蔦茂」にて懷石料理を味わい、それから徳川美術館・徳川園を見学し、徳川美術館では、国宝源氏物語絵巻の特別公開があり鑑賞しました。

徳川園は、池泉回遊式の日本庭園で紅葉を見ながら散策しました。両日共、天候に恵まれ名古屋駅まで皆様をお送りし、来年の東京での再会を期し散会しました。

(村木 正 記)



志 学 会

昭和42年卒

総会前日のプチ観光もあり、今回も10数名が宇治平等院鳳凰堂、伏見稲荷神社、萬福寺、東寺等を訪れた。総会は会員32名、夫人15名の参加を得て10月17日京都ロイヤルホテルで開催された。大岡会長の挨拶のあとは会務、会計報告があり同窓会会長の矢崎君からは学内の様子、国試の結果、大学のこれからの報告があり西棟の完成をもってTDC サグラダファミリアもひと段落の様だ。次期開催地は富山となった所で閉会、宴会の為ホテル近くの料亭「梅むら」に移動した。

伊藤博文公の常宿でもあり、ここから料亭政治が始まったのかも知れない。

ひと品ひと品が手の込んだ料理で時節柄松茸の土瓶蒸しに人気があった。

和気あいあいと部屋の熱気が満ちた頃障子を開けると鴨川からの心地良い風が…夏の風物詩の一場

面を垣間みた。京料理を堪能したあと三条大橋畔の小料理店で二次会、秋の夜長を楽しんだ。

翌日の市内観光は30名程の参加でまず清水寺へ。寺は青い空と緑の木々に囲まれ絵はがきそのもので修学旅行生と外国人観光客が多い。次にさんねん坂にある美術館へ。中川（勝）幹事がTV でみて凄い、驚いたを連発、なにがどう凄いのか実体を観に訪れたのだが、そこにあったのは超絶微細精緻工芸品の数々であった。

どう表現したらよいのか？仁丹粒に和歌一首といった所か。明治の西洋化によってこれ程の技術が途絶してしまったそうだがその血統はどこかに受け継がれて居て欲しいものである。

その精緻さ、機会あれば一見されたい。次に円通寺を訪ねる。ここの枯山水石庭がのちの桂離宮、竜安寺のお手本になったそうである。



観光も余りさせない、住職も気難しいご仁と聞いていたが、寺の由来など丁寧に解説して下さい。格式ある寺は違う。

昼食の為、大徳寺に向かう。

一休さん…一休禅師が住職をしていたり、秀吉を怒らせた千利休像がある。托鉢に使う応量器という七重の椀で頂く精進料理だがその実、食事のしかた、順序すべて修行であり椀を取り落としたりすると、即破門という厳しい戒律があるとは知らず、一行は楽しく、美味しく頂きました。

訪れた所は少なめだったが仲々に内容も充実していた京都総会でした。（赤穂英生 記）



庶務日誌

1 月		TDC 研修倶楽部	
1) 理事会		15日(木)	井出学長との座談会
1 月14日(水)	第1回常任理事会	21日(水)	TDC アカデミア2015 卒後研修 DSM
2) 委員会		22日(木)	TDC アカデミア2015 卒後研修 歯 科臨床を語る会
1 月5日(月)	会務運営協議会	29日(木)	TDC アカデミア2015 医療教養 リ ベラルアーツ・リレー講座第1回
9日(金)	同窓会創立120周年記念事業実行委 員会委員長・副委員長打合せ会		
13日(火)	事業推進部社会保障制度研究委員会		
16日(金)	広報部広報委員会	2 月	
16日(金)	事業推進部卒後研修委員会	1) 理事会	
20日(火)	渉外部渉外委員会	2 月21日(土)	第1回理事会
20日(火)	事業推進部医療教養委員会	2) 委員会	
22日(木)	事業推進部臨床セミナー委員会(エ ンドセミナー打合せ)	2 月2日(月)	事業推進部臨床セミナー委員会(研 究委員会B)
26日(月)	事業推進部臨床セミナー委員会(研 究委員会B)	2日(月)	同窓会創立120周年記念事業実行委 員会祝賀会小委員会
26日(月)	新進会員のつどい準備会(反省会)	3日(火)	事業推進部卒後研修委員会(ペ シクセミナー打合せ)
30日(金)	事業推進部臨床セミナー委員会	3日(火)	事業推進部アカデミア検討会
3) 出張		4日(水)	事業推進部社会保障制度研究委員会
1 月6日(火)	千代田支部新年会 矢崎会長出席	4日(水)	事業推進部臨床セミナー委員会(ペ リオセミナー打合せ)
16日(金)	芝支部総会 矢崎会長出席	5日(木)	広報部広報委員会(小委員会)
17日(土)	東京地域支部連合会新年交歓会 矢崎会長, 他役員出席	9日(月)	事業推進部臨床セミナー委員会 (2016プログラム委員会)
25日(日)	三重県支部総会 浮地副会長出席 学術講演会 講師・森永一喜准教授 (母校)	12日(木)	同窓会創立120周年記念事業実行委 員会委員長・副委員長打合せ会
25日(日)	東京医科歯科大学歯科同窓会新年名 刺交換会 矢崎会長, 臼井常任理事出席	12日(木)	事業推進部臨床セミナー委員会(エ ンドセミナー打合せ)
25日(日)	全国歯科大学同窓・校友会学術担当 者連絡会準備会 加藤委員長, 山本委員出席	13日(金)	事業推進部臨床セミナー委員会(ス タッフセミナー打合せ)
30日(金)	浅草・下谷支部合同新年会 矢崎会長出席	13日(金)	広報部広報委員会
4) 事業		14日(土)	事業推進部臨床セミナー委員会(エ ンドセミナー打合せ)
1 月14日(水)	TDC アカデミア2015 卒後研修	16日(月)	会務運営協議会
		17日(火)	同窓会創立120周年記念事業実行委 員会記念誌打合せ

17日(火) 事業推進部医療教養委員会

17日(火) 二校会委員会(仮称)

19日(木) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)

24日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議

25日(水) 事業推進部社会保障制度研究委員会(勉強会)

3) 出張

2月8日(日) 岡山県支部総会 宮地副会長出席
学術講演会 講師・宮地建夫先生
(東京都開業)

8日(日) 埼玉県支部新年会 矢崎会長出席

14日(土) 世田谷支部(世水会)創立80周年記念祝賀会 矢崎会長出席

14日(土) 北多摩支部総会 臼井常任理事出席

28日(土) 全国歯科大学同窓会・校友会・日歯連盟参与会議 矢崎会長出席

4) 事業

2月9日(月) TDC アカデミア2015 卒後研修
TDC 研修倶楽部

18日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修
DSM

26日(木) TDC アカデミア2015 医療教養 フ
ロントランナーセミナーNo.1

同窓会創立120周年記念として東京歯科大学学会の300回記念に協力してゆくことになりました。
多くの同窓が出席していただけるようお願いします。

予 告

第300回 東京歯科大学記念学会・総会

東京歯科大学同窓会創立120周年記念

開催日：平成27年10月17日(土)
18日(日)

場 所：東京歯科大学水道橋校舎 新館

東京歯科大学学会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18 東京歯科大学水道橋校舎 本館5F
電話：03-6380-9279

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 32 卒	伊 藤 郁 雄 (82歳)	広島県三次市	26. 12. 5
●昭 34 卒	八ッ橋 康 平 (79歳)	横浜市南区	26. 12. 8
●昭 27 卒	高 木 二三男 (86歳)	静岡県富士宮市	26. 12. 21
●昭 30 卒	佐 藤 忠 男 (84歳)	東京都品川区	26. 12. 26
●昭 20.9 卒	田 代 成 一 (95歳)	神奈川県足柄上郡	26. 12. 22
●昭 22 卒	高 橋 日出夫 (89歳)	富山県富山市	26. 12. 26
●昭 26 卒	横 瀬 和 夫 (84歳)	東京都世田谷区	26. 7. 25
●昭 25 卒	高 澤 孝 幸 (86歳)	長野県佐久市	26. 12. 29
●昭 26 卒	角 倉 功 (86歳)	愛知県名古屋市	26. 12. 24
●昭 33 卒	中 村 昭 仁 (81歳)	神奈川県相模原市	27. 1. 2
●昭 30 卒	青 柳 信 (85歳)	神奈川県小田原市	26. 12. 21
●昭 29 卒	松 岸 吉 晴 (88歳)	山形県東置賜郡	27. 1. 2
●昭 46 卒	盆子原 強 (71歳)	北海道旭川市	26. 12. 26
●昭 33 卒	瀬 田 和 夫 (81歳)	東京都足立区	27. 1. 5
●昭 23 卒	水 島 謙 二 (89歳)	東京都文京区	26. 12. 13
●昭 35 卒	木 津 武 久 (79歳)	北海道札幌市	27. 1. 5
●昭 32 卒	奥 信 子 (82歳)	岡山県津山市	27. 1. 4
●昭 19.9 卒	西 條 征 二 (91歳)	徳島県鳴門市	27. 1. 10
●昭 34 卒	筱 正 昭 (80歳)	埼玉県さいたま市	26. 12. 22
●昭 20.9 卒	稲 葉 幸 (90歳)	埼玉県北葛飾郡	27. 1. 3
●昭 19.9 卒	喜多詰 和 親 (91歳)	千葉県千葉市	27. 1. 12
●昭 31 卒	野 口 八九重 (83歳)	福島県郡山市	27. 1. 16
●昭 56 卒	川 崎 伸 人 (58歳)	愛知県名古屋市	27. 1. 18
●昭 31 卒	中 山 正 規 (82歳)	福井県福井市	25. 6. 5
●昭 30 卒	帛 田 尚 子 (83歳)	神奈川県川崎市	27. 1. 20
●平 13 卒	工 藤 綾 乃 (40歳)	静岡県沼津市	27. 1. 27
●昭 25 卒	市 原 泰 彦 (88歳)	千葉県長生郡	27. 1. 18
●昭 41 卒	井 上 護 (76歳)	神奈川県相模原市	27. 2. 6
●推薦会員	酒 井 次 郎 (98歳)	大分県別府市	26. 9. 6
●昭 22 卒	瀬 尾 正 巳 (90歳)	広島県府中市	27. 2. 5
●昭 34 卒	丹 沢 之 彦 (83歳)	神奈川県川崎市	27. 2. 10

◆投 稿 規 定

※平成26年度より、偶数月発行から年間4回（2，6，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投 稿 様 式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投 稿 字 数

投稿欄	内容	文字数、備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想、詩、短歌、 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://tdc-alumni.jp/organization/dousoukai/kouhoubu/> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）	フリガナ		所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	— —	FAX 番号	— —	
投稿先 ☐ に✓印チェック	同窓会会報	☐ カラーグラビア ☐ ふるさと自慢 ☐ クラス会だより	☐ 追悼 ☐ すいどうばし ☐ OB, グループ・サークル	☐ 支部のうごき ☐ いなげ
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

◆へんしゅうこうき

★つい先日、久しぶりに年末年始をゆっくり過ごせたなと思っていたら、もう2月。大学では国試、入試が終わると12日の創立記念日を挟んで、卒業式、入学式のシーズンで、てんてこ舞いです。年度末は皆様も種々な行事が目白押しなのではないでしょうか？

最近、本当に月日の経つのがアッという間です。

★「加齢とともに1年が過ぎるのが速い気がする。」のは気のせいではなく、ちゃんとエビデンスがあるようです。フランスのピエール・ジャネーという心理学者が説いた法則「ジャネーの法則」で、50歳の人にとって1年は人生の50分の1ですが、5歳の子供にとって1年は人生の5分の1。年齢の逆数に比例するのだそうです。つまり、50歳の人にとっての10年間は5歳の子供の1年間に当たり、5歳の子供にとっての1日は50歳の人の10日に相当するということだそうです。説得力がありますね。

★今号の「ふるさと自慢」は、「川のまち、丘のまち、海のまち」と題して横浜市の鶴見をご紹介いただいております。雑然としたイメージがある街ですが、好きな街です。しかし総持寺の境内に「歯の塚」があるなんて知りませんでした。道元禅師の「正法眼蔵」は、高校時代に倫理社会学の講義で習い、教師に「大人になってから、もう一度時間をかけてじっくりと読め!」と言われた記憶があります。しかし、難解な上に大きな書物を読破する時間もなくて今に至っており、これを機に少しでも読んでみようかなという気になりました。

★会員往来もいつも楽しい方々に投稿していただいておりますが、改めていろいろな才能を開花させた先生がいらっしゃるものだと感動致しました。今や3Dプリンターの時代ですが、手作りの良さはいつの時代になっても廃れることはないでしょう。これからも同窓の先生方の中に埋もれている、好奇心満載なユニークな先生方をご紹介できればと思っております。

★本学同窓会も「創立120周年記念事業」の準備に追われています。特に来る11月末の記念式典は、「医はこれ済世ひとへに仁なり－伝統そして未来への飛躍－」というテーマの下で盛大に開催すべく、準備が進められております。この調子ですと、高齢の方ほど(?)本当にアッという間に11月が来てしまうでしょう。皆様もぜひ11月29日はご予約を空けておいていただき、ご一緒に祝杯を上げていただければと思っております。
(古澤成博 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
山口 雅史
古澤 成博
奥野 圭子
佐々木 葉子
皆川 雅彦
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成27年2月20日 印刷

平成27年2月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第399号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 小 池 修

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)